

救急救命科 シラバス 1 学年

【 講 義 版 】



学校法人セムイ学園

東海医療工学専門学校

救急救命科 (1 学年)

令和 7 年度（2025 年度） シラバス目次

科目名	項
化 学	2
生物学	4
情報科学	6
心理学	8
英 語	10
体 育	13
解剖学・生理学Ⅰ	15
解剖学・生理学Ⅱ	20
生化学	22
病理学・法医学	24
保健医療制度・社会保障と社会福祉	29
救急医学概論	32
観察と評価	35
救急処置・搬送	37
検査/放射線医学	39
感染/安全管理	42
救急症候・病態生理学Ⅰ	44
救急症候・病態生理学Ⅱ	46
救急症候・病態生理学Ⅲ	48
疾病救急医学Ⅰ	51

[illegible]

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	化 学 （ Chemistry ）
担当者	加藤 裕美
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講 義
教科書・参考書	プリントによる配布資料

授業概要と目的
【 学習目的 】 医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。 【 授業概要 】 いままで化学を勉強していない人にも理解できる授業内容です。 種々の物質はなにからできているのでしょうか？ 水（液体）は氷（固体）や蒸気（気体）に変化します。これは、なぜでしょう？ わたしたちの体にとって毒になる物質は、どのようなものなのでしょうか？ なお、教育機関で化学に関する研究、教育経験のある講師がその経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期 (4月～9月)	「生体分子の構造と機能」 生体を作る元素、生体分子の構造と特徴、物質代謝とエネルギーについて理解する。	「人体を構成する化学物質」 ・人体を構成する化学物質について説明ができる。 ・水素、炭素、酸素の原子記号が説明できる。	加藤 裕美
2	前 期 (4月～9月)	「化学の基礎知識」 生体を作る元素、生体分子の構造と特徴、物質代謝とエネルギーについて理解する。	「物質と化合物」 ・水や塩酸の化学式について説明することができる。	加藤 裕美
3	前 期 (4月～9月)	「原子構造」 種々の化学物質の物質質量および原子量について理解する。	「物質質量と原子量」 ・水素、炭素、酸素の原子量について説明することができる。	加藤 裕美
4	前 期 (4月～9月)	「元素」 物質を構成する基本単位である元素を理解する。	「周期表」 ・周期表の意味について説明できる。 ・水素、炭素、酸素の原子記号が説明できる。	加藤 裕美
5	前 期 (4月～9月)	「イオン・共有分子・金属結合」 イオン・共有分子・金属結合の特性とその違いについて理解する。	「物質と共有結合など」 ・二酸化炭素などの共有結合について説明できる。 ・共有結合と金属結合の違いについて説明できる。	加藤 裕美

6	前期 (4月～9月)	「分子・分子量」 分子とその種類について理解する。	「分子量」 ・分子量について説明することができる。	加藤 裕美
7	前期 (4月～9月)	「原子・電子配置」 原子の性質、分子とその種類について理解する。	「原子」 ・電子、陽子、中性子について説明することができる。	加藤 裕美
8	前期 (4月～9月)	「酸化還元反応」 酸化還元反応などの化学変化が起こる過程について理解する。	「酸化と還元」 ・気体における酸化還元反応について説明できる。	加藤 裕美
9	前期 (4月～9月)	「酸化還元反応」 酸化還元反応などの化学変化が起こる過程について理解する。	「酸化と還元」 ・金属における酸化還元反応について説明できる。	加藤 裕美
10	前期 (4月～9月)	「pH（水素イオン濃度）①」 水溶液の性質（酸性・アルカリ性）の程度を示す単位について理解する。	「pH」 ・pHについて説明することができる。	加藤 裕美
11	前期 (4月～9月)	「pH（水素イオン濃度）②」 水溶液の性質（酸性・アルカリ性）の程度を示す単位について理解する。	「酸性とアルカリ性」 ・酸性の性質について説明することができる。 ・アルカリ性の性質について説明することができる。	加藤 裕美
12	前期 (4月～9月)	「モル濃度の計算」 物質の構成、化学結合、モル濃度計算について理解する。	「モル濃度計算」 ・モル濃度の計算方法について説明することができる。 ・pHについて説明することができる。	加藤 裕美
13	前期 (4月～9月)	「化学反応」 イオン化傾向などの化学変化が起こる過程について理解する。	「イオン化傾向と金属の反応性」 ・常温化における水のイオン化傾向を説明できる。 ・鉛と酸との反応性について説明できる。	加藤 裕美
14	前期 (4月～9月)	「内分泌物質の物質と化学結合」 炭素などの有機化合物の定義、有機化合物ある内分泌物質の性質や機能について理解する。	「内分泌物質の有機化合物」 ・一つの分子に炭素、水素、窒素を含む有機化合物の定義、内分泌物質の性質について説明できる。	加藤 裕美
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	加藤 裕美
成績評価方法		筆記試験（100点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 高校レベルの内容です。専門教科の基礎となります。 しっかりと、学習してください。		

学科・年次	救急救命科 1 年次
科目名	生物学 (Biology)
担当者	加藤 裕美
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	プリントによる配布資料

授業概要と目的
【 学習目的 】 医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。 【 授業概要 】 生命の基本である細胞を理解します。 細胞はどのような機能を持っているのか？ わたしたちの生命は、細胞の機能とどのように関連しているのか？ なお、教育機関で生物学に関する研究、教育経験のある講師がその経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期 (4 月～9 月)	「生物の特徴」 生物学的な「生命の定義」について概要を理解する。	「細 胞」 ・細胞の概略について説明できる。	加藤 裕美
2	前 期 (4 月～9 月)	「同化と異化」 エネルギー代謝における同化と異化について概要を理解する。	「同化・異化」 ・エネルギー代謝における同化と異化について説明することができる。	加藤 裕美
3	前 期 (4 月～9 月)	「光合成と呼吸」 光合成による化学反応課程について概要を理解する。	「光合成」 ・光合成の化学式について説明できる。 ・人体と光合成の違いについて説明できる。	加藤 裕美
4	前 期 (4 月～9 月)	「遺伝子の構造と機能」 DNA の化学構造 (チミンなど) について概要を理解する。	「DNA の基本構成要素」 ・DNA の基本構成要素を塩基、リン酸などを用いて説明できる。	加藤 裕美
5	前 期 (4 月～9 月)	「蛋白質代謝 (アミノ酸)」 蛋白質代謝の役割と蛋白質の変化について理解する。	「アミノ酸」 ・必須アミノ酸の種類と機能を説明できる。	加藤 裕美
6	前 期 (4 月～9 月)	「心臓の構造と機能 (1)」 心臓の構造と機能 (特に蛋白質などの合成) について理解する。	「心臓の仕組み」 ・心臓の構造と機能について説明できる。 ・人間の体液の構成について説明できる。	加藤 裕美

7	前期 (4月～9月)	「心臓の構造と機能（２）」 心臓の構造と機能（特に蛋白質などの合成）について理解する。	「循環の仕組み」 ・血液による循環経路について説明できる。 ・循環による酸素供給について説明できる。	加藤 裕美
8	前期 (4月～9月)	「肝臓の構造と機能（恒常性）」 肝臓の構造と機能（特に蛋白質などの合成）について理解する。	「蛋白質の合成など」 ・アルブミンおよびグロブリンなどの蛋白質の機能について説明できる。	加藤 裕美
9	前期 (4月～9月)	「腎臓の構造と機能（恒常性）」 腎臓の構造と機能（特に尿の生成）について理解する。	「尿の生成」 ・腎単位（ネフロン）におけるろ過と再吸収について説明できる。	加藤 裕美
10	前期 (4月～9月)	「免疫の機能」 血清（免疫）の構造と機能について理解する。	「免疫」 ・自然免疫および獲得免疫の仕組みについて説明できる。	加藤 裕美
11	前期 (4月～9月)	「血液の機能（１）」 血液の構造と機能について理解する。	「血液型」 ・糖鎖構造の違いによる血液型（ABO型）の概要について説明できる。	加藤 裕美
12	前期 (4月～9月)	「血液の機能（２）」 血液の構造と機能について理解する。	「血液型の決定」 ・遺伝による血液型（ABO型）の決定について説明できる。	加藤 裕美
13	前期 (4月～9月)	「神経細胞と情報伝達機構」 シナプスにおける神経細胞間情報伝達メカニズムなどについて概要を理解する。	「神経細胞の構造」 ・神経細胞の構造について軸索や樹状突起などを用いて説明できる。	加藤 裕美
14	前期 (4月～9月)	「内分泌の構造と機能」 インスリンをはじめとする内分泌の構造と機能について理解する。	「糖代謝」 ・インスリンなどによる糖代謝について説明できる。 ・低血糖時の代謝について説明できる。	加藤 裕美
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	加藤 裕美
成績評価方法		筆記試験（100点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 高校レベルの内容です。専門教科の基礎となります。 しっかりと、学習してください。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	情報科学 (Computer literacy)
担当者	新井 隆裕
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	インターネット社会を生きるための情報倫理 30 時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2013

授業概要と目的
【 学習目的 】 医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。 【 授業概要 】 本講義は、高等学校以前に学習しているワープロ、表計算、情報検索能力、インターネット関連技術などを実際に活用できる力として「PowerPoint」を使用した学習課題の作成を通して養うことを最終目的とする。 将来、学会発表やグループミーティング等の場においてプレゼンテーションを行う機会は今後ますます多くなることが予測される。「情報科学」では、情報機器の操作技能に習熟する目的もあるが、自分の力で情報を収集し、それを整理・分解し、他者に伝達・発信できるようになることを目的とする。その手段・方法として情報機器の利用を学ぶ。また、質疑応答などによるディスカッションの練習、他者の発表の評価を行うことなども実習の目的とする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「情報倫理学」 個人が情報を扱う上で必要とされる道德などの倫理について理解する。	「情報化社会における倫理感」 ・ SNS 情報ツール活用時に求められる倫理感（個人情報取り扱いなど）について説明することができる。	新井 隆裕
2	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション（１）」 Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「スライドの文字入力」 ・ Microsoft PowerPoint による文字入力の方法などについて説明することができる。	新井 隆裕
3	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション（２）」 Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「オブジェクト（画像）の挿入」 ・ Microsoft PowerPoint によるオブジェクト（画像）の挿入方法について説明することができる。	新井 隆裕
4	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション（３）」 Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「スライドの書式変更」 ・ Microsoft PowerPoint によるスライドの書式変更の方法について説明することができる。	新井 隆裕
5	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション（４）」 Microsoft PowerPoint によるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「表の作成」 ・ Microsoft PowerPoint および Excel を用いた表の作成方法について説明することができる。	新井 隆裕

6	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(5)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼン資料の作成(スライド)」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼン資料の作成(スライド)方法について説明することができる。	新井 隆裕
7	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(6)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼンテーションの概要」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼンテーションの概要について説明することができる。	新井 隆裕
8	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(7)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼン資料の視覚的効果」 ・Microsoft PowerPointによるプレゼン資料の視覚的効果について説明することができる。	新井 隆裕
9	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(8)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼンテーションと表現力」 ・Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションと効果的な表現方法について説明することができる。	新井 隆裕
10	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(9)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼン資料の作成(発表原稿)」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼン資料の作成(発表原稿)方法について説明することができる。	新井 隆裕
11	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(10)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼンテーションの実施①」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼンテーションを実施することができる。	新井 隆裕
12	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(11)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼンテーションの実施②」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼンテーションを実施することができる。	新井 隆裕
13	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(12)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼンテーションの実施③」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼンテーションを実施することができる。	新井 隆裕
14	前期 (4月～9月)	「プレゼンテーション(13)」 Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションの作成方法などについて理解する。	「プレゼンテーションの実施④」 ・Microsoft PowerPointを用いたプレゼンテーションを実施することができる。	新井 隆裕
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	新井 隆裕
成績評価方法		筆記試験 33.4点 + 実技試験(プレゼンテーション) 33.3点 + 課題評価 33.3点 = 総合評価 100点 *出席との総合評価であるが、課題の未提出者に合格点を与えないものとする。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 実習を中心とした授業であるため、必ず毎週出席してください。 止むを得ず休む場合には、次週までに講義で行った演習課題を完了させて次回の講義に臨んで下さい。講義内容を時間内に理解できるように教科書の予習を行ってください。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	心理学 (Psychology)
担当者	崎山 真理
単位数(時間数)	1単位(16時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版など

授業概要と目的
【 学習目的 】 人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。 【 授業概要 】 心理学が人間の心理と行動を理解するために成立した科学である。本講義は、心理学の基礎知識を学ぶことによって、心理学的なものの見方を身につけ、こころのレジリエンスを高めることを目的とする。 1) ストレスの概念とそのメカニズムを理解する。 2) 現在生活におけるストレスマネジメントの必要性および方略を理解する。 3) PTSD 概念とその状態を理解し、予防対策についての理解を深める。 なお、大学院で心理学に関する研究経験のある講師がその経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「心理学総論」 心理学という学問について知り、本講義でどのようなことを学ぶのかを理解する。	「心理学と心の理解」 ・科学的に人の心を理解すること、相手の心を理解するためにどのような心理学的知識が求められるのかについてについて説明できる。	崎山 真理
2	前期 (4月～9月)	「心理的発達」 人間の精神発達について学ぶ。様々な発達理論について理解する。	「発達心理学」 ・人間の精神がどのような過程を経て発達してくのかについて説明できる。	崎山 真理
3	前期 (4月～9月)	「救急救命士としての接遇」 救急救命士として求められる接遇やコミュニケーション能力について理解する。	「インフォームドコンセント」 ・救急救命士として求められる接遇やコミュニケーション能力について説明できる。	崎山 真理
4	前期 (4月～9月)	「救急救命士としての接遇」 傷病者に対するコミュニケーションの種類や手段の違いについて理解する。	「傷病者とのコミュニケーション」 ・救急救命士として求められる接遇やコミュニケーション能力について説明できる。	崎山 真理
5	前期 (4月～9月)	「適応とストレス理論」 人にとってのストレスの概要と与える影響について理解する。	「ストレスケア」 ・ストレスが人に及ぼす影響とストレスケアについて説明できる。	崎山 真理

6	前期 (4月～9月)	「災害時のストレス」 災害現場で求められる心理的支援や、その介入について理解する。	「ストレス障害」 ・緊急事態時の危機介入について知り、平時との精神状態の違いなどについて説明できる。	崎山 真理
7	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	崎山 真理
8	前期 (4月～9月)	「まとめ」 科目認定試験の結果をふまえ復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救急救命士標準テキストに記載されている心理学の内容について説明できる。	崎山 真理
成績評価方法		筆記試験（100点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 受講生による発表や演習をできるだけ取り入れ、積極的な参加が望ましい。		

学科・年次	救急救命科 1 年次
科目名	英 語 （ English ）
担当者	クアム ジェイ
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講 義
教科書・参考書	Get Real 2 new edition

授業概要と目的
【 学習目的 】 人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。 【 授業概要 】 グループによるペアワークやゲームを加えながら授業を展開する。英語のみを使った質問形式とロールプレイによる会話形式であり、段階的な質問形式を用い会話を通して会話能力を学習していく。講師が一方向的に話す授業形式ではなく、会話の基本である『聞く』『話す』ことに重点が置いて学習していく。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10 月～3 月)	「English conversation (1)」 Birthdays/Review of simple present tense and future with "going to" * 上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語のアルファベットを聞いて、どの文字かを説明できる。	クアム ジェイ
2	後 期 (10 月～3 月)	「English conversation (2)」 Holidays/Common items associated with holidays * 上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・日常生活の身近な英単語を聞いて、その意味について説明できる。	クアム ジェイ
3	後 期 (10 月～3 月)	「English conversation (3)」 Organizing a party/Future "will" (decision- making) * 上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・簡単な英文を聞いて、その内容を理解することができる。	クアム ジェイ
4	後 期 (10 月～3 月)	「English conversation (4)」 Eating out / Food words * 上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で日常的なあいさつや簡単な会話ができる。	クアム ジェイ
5	後 期 (10 月～3 月)	「English conversation (5)」 Entertainment/Talking about preferences with "so do I" and Neither "do I" * 上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で簡単な質問をしたり、相手の質問に答えたりすることができる。	クアム ジェイ

6	後 期 (10月～3月)	「English conversation (6)」 Movies / different kinds of movies and adjectives to describe them ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で身近なことについて言うことができる。(時刻、 日付、曜日、週末の予定等)	クアム ジェイ
7	後 期 (10月～3月)	「English conversation (7)」 Transportation / Questions with ” How・・・?” ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語の写真やポスターなどから必要な情報を読み取 ることができる。	クアム ジェイ
8	後 期 (10月～3月)	「English conversation (8)」 Geographical features of the world / Geographical features ; Adjectives for describing size ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で自分のことについて短い話をすることができ る。	クアム ジェイ
9	後 期 (10月～3月)	「English conversation (9)」 Famous people/Review of simple past tense with time expressions ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・英語で日常生活の行動について言うことができる。	クアム ジェイ
10	後 期 (10月～3月)	「English conversation (10)」 Major events in life / Important things people do ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・講師やクラスメートの問いかけに英語で答えること ができる。	クアム ジェイ
11	後 期 (10月～3月)	「English conversation (11)」 Shopping for and eating food/”How much/many ” with uncountable and countable nouns ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・簡単な英会話やアナウンス、英語による道案内等を聞 いて、理解することができる。	クアム ジェイ
12	後 期 (10月～3月)	「English conversation (12)」 Recycling and the environment / Recyclable goods ; ways of helping the environment ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・教科書で読んだ内容等に関して、英語で自分の考えを 述べるができる。	クアム ジェイ
13	後 期 (10月～3月)	「English conversation (13)」 Comparing countries of the world / Comparative and superlative adjectives ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・自分のこと (将来の夢、悩み、うれしかったこと等) について、英語で話すことができる。	クアム ジェイ
14	後 期 (10月～3月)	「English conversation (14)」 Apartments / Adjectives for describing rooms and apartments ＊上記の内容について理解する。	「English conversation (英会話)」 ・自分のこと (将来の夢、悩み、うれしかったこと等) について、英語で話すことができる。	クアム ジェイ

15	後 期 (10 月～3 月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	クアム ジェイ
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 Don't be shy! Just go ahead and say it!		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	体 育 （ physical education ）
担当者	辻内 智樹
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	特になし

授業概要と目的
【 学習目的 】 人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。 【 授業概要 】 本授業では自己の健康・体力に対する認識を深めて、スポーツを楽しみながら体力の向上を図る。また、健康づくりを実践できるようにトレーニング科学の基礎講義も行う予定である。 スポーツを生活の中にうまく取り入れ、自分の健康を自己管理する習慣を学習する。 なお、体育学修士として教育機関などで体育学に関する実務経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10月～3月)	「講義ガイダンス」 学習内容および学習方法について理解する。	「ガイダンス」 ・実技場所の確認およびスマホアプリの取り扱いなどについて説明できる。	辻内 智樹
2	後 期 (10月～3月)	「体力テスト」 健康調査と体力測定を行い、今後の学習内容について理解する。	「健康調査と体力測定」 ・自らの健康状態および体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明できる。	辻内 智樹
3	後 期 (10月～3月)	「体力向上と企画書の作成」 健康調査と体力測定の結果から体力向上を目的とした企画書の作成について理解する。	「グループワークによる企画書作成」 ・自らの健康状態および体力を把握し、今後求められる体力増進の企画書の作成方法について説明できる。	辻内 智樹
4	後 期 (10月～3月)	「持久走（１）」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹
5	後 期 (10月～3月)	「体育実技（１）」 企画書に基づき運動能力の把握に加えて仲間との協調性について理解する。	「グループワーク①」 ・各グループの作成した企画書に基づく体力向上の方法について説明できる。	辻内 智樹
6	後 期 (10月～3月)	「持久走（２）」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹

7	後 期 (10月～3月)	「体育実技（２）」 企画書に基づき運動能力の把握に加えて仲間との協調性について理解する。	「グループワーク②」 ・各グループの作成した企画書に基づく体力向上の方法について説明できる。	辻内 智樹
8	後 期 (10月～3月)	「持久走（３）」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹
9	後 期 (10月～3月)	「体育実技（３）」 企画書に基づき運動能力の把握に加えて仲間との協調性について理解する。	「グループワーク③」 ・各グループの作成した企画書に基づく体力向上の方法について説明できる。	辻内 智樹
10	後 期 (10月～3月)	「持久走（４）」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹
11	後 期 (10月～3月)	「体育実技（４）」 企画書に基づき運動能力の把握に加えて仲間との協調性について理解する。	「グループワーク④」 ・各グループの作成した企画書に基づく体力向上の方法について説明できる。	辻内 智樹
12	後 期 (10月～3月)	「持久走（５）」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹
13	後 期 (10月～3月)	「体育実技（５）」 企画書に基づき運動能力の把握に加えて仲間との協調性について理解する。	「グループワーク⑤」 ・各グループの作成した企画書に基づく体力向上の方法について説明できる。	辻内 智樹
14	後 期 (10月～3月)	「持久走（６）」 トレーニング科学における基礎体力向上の実践論について理解する。	「男子 2km 走・女子 1km 走」 ・持久走を通して自らの体力を把握し、今後求められる体力増進法について説明することができる。	辻内 智樹
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	辻内 智樹
成績評価方法		実技試験（100 点満点）		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 体育実技を受講するときには、運動ができる服装で体調を整えて参加すること。 《 補 足 》 １）新型コロナウイルス感染症の影響により講義内容の変更がやむを得ない場合はあり得る。 ２）本講義は雨天などにより指定された運動場などが使用困難の場合は、日程の変更および学内の実習室などにおける基礎体力錬成に変更する場合がある。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	解剖学・生理学Ⅰ【1】（Human Anatomy and PhysiologyⅠ）
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	3単位（75時間—神経系・感覚器・内分泌系分野 45時間分）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版 参考書：からだが見える（人体の構造と機能）（株）メディアメディア発行

授業概要と目的
【 学習目的 】 人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 人体の構造はどのようになっており、また人体のいろいろな部分はどのように働いて我々の生物活動を維持しているのかを学ぶ。人体の構造と機能の知識は救急救命医学の基礎を成すものであるから、この学科は救急救命科のほかの科目を勉強するに先立ってしっかり習得しなければならない。 なお、医師として医療機関などで基礎医学（主に病理学）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。 ＊ 呼吸および循環に係る人体の構造については解剖学・生理学Ⅱなどで学習する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「人体の作りとその役割(1)」 人体の作りと役割を細胞、組織、臓器の概念について理解する。	「細胞」標準テキストP.56参照 ・細胞の一般的な構造について説明できる。 ・核およびミトコンドリアの機能について説明できる。	益田 健史
2	前期 (4月～9月)	「人体の作りとその役割(2)」 組織、器官・器官系のそれぞれの構造と機能について理解する。	「組織・器官・器官系」標準テキストP.57参照 ・上皮組織・支持組織・筋組織について説明できる。 ・組織と器官の違いについて説明できる。	益田 健史
3	前期 (4月～9月)	「体液(1)」 体液の作りと役割を電解質、酸塩基平衡、浸透圧、体液の調節について理解する。	「細胞内液・外液」標準テキストP.59参照 ・細胞内液の電解質の構成について説明できる。 ・細胞外液の電解質の構成について説明できる。	益田 健史
4	前期 (4月～9月)	「体液(2)」 体液の作りと役割を電解質、酸塩基平衡、浸透圧、体液の調節について理解する。	「酸塩基平衡・浸透圧」標準テキストP.61参照 ・酸塩基平衡維持の仕組みについて説明できる。 ・浸透圧による体液調節機能について説明できる。	益田 健史
5	前期 (4月～9月)	「体表からみる人体の構造(1)」 体表からみた人体の構造と名称について理解する。	「人体の位置・方向など」標準テキストP.63参照 ・身体にある3つの軸と面について説明できる。 ・関節運動の方向について説明できる。	益田 健史

6	前期 (4月～9月)	「体表からみる人体の構造(2)」 体表からみた人体の構造と名称について理解する。	「頭部～腹部の構造」 標準テキスト P.67 参照 ・乳様突起、オトガイ部の位置について説明できる。 ・上肢帯の構造について説明できる。	益田 健史
7	前期 (4月～9月)	「体表からみる人体の構造(3)」 体表からみた人体の構造と名称について理解する。	「上肢・下肢の構造」 標準テキスト P.71 参照 ・正中皮静脈の位置について説明できる。 ・大腿動脈の位置について説明できる。	益田 健史
8	前期 (4月～9月)	「体表からみる人体の構造(4)」 体表からみた人体の構造と名称について理解する。	「身体各部の役割・体腔」 標準テキスト P.75 参照 ・腹腔内に存在する臓器について説明できる。 ・後腹腔内に存在する臓器について説明できる。	益田 健史
9	前期 (4月～9月)	「中枢神経系(1)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「大脳の構造と機能」 標準テキスト P.80 参照 ・大脳表面の運動野、感覚野、言語中枢などの機能について説明できる。	益田 健史
10	前期 (4月～9月)	「中枢神経系(2)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「間脳などの構造と機能」 テキスト P.81 参照 ・脳幹の3つの機能について説明できる。 ・小脳の機能について概略を説明できる。	益田 健史
11	前期 (4月～9月)	「中枢神経系(3)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脊髄などの構造」 標準テキスト P.82 参照 ・脊髄における錐体路の位置について説明できる。	益田 健史
12	前期 (4月～9月)	「中枢神経系(4)」 中枢神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脳脊髄液の構造」 標準テキスト P.84 参照 ・髄液の流れる方向と位置について説明できる。	益田 健史
13	前期 (4月～9月)	「末梢神経系・伝導路」 末梢神経系および伝導路の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脳神経などの構造」 標準テキスト P.84 参照 ・脳神経(12神経)のそれぞれの機能について説明できる。	益田 健史
14	前期 (4月～9月)	「自律神経系」 自律神経系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「自律神経系の構造」 標準テキスト P.87 参照 ・自律神経の分布と機能について説明できる。	益田 健史
15	前期 (4月～9月)	「脳循環・意識(1)」 脳循環および意識の成り立ちを構造と役割について理解する。	「脳循環」 標準テキスト P.90 参照 ・ウィリス動脈輪の構成について説明できる。 ・脳の酸素消費量について説明できる。	益田 健史
16	前期 (4月～9月)	「脳循環・意識(2)」 脳循環および意識の成り立ちを構造と役割について理解する。	「頭蓋内圧とその調節」 標準テキスト P.90 参照 ・脳灌流圧の構成式について説明できる。 ・意識(覚醒中枢)の位置と機能について説明できる。	益田 健史
17	前期 (4月～9月)	「感覚系(1)」 感覚系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「聴覚・平衡感覚など」 標準テキスト P.92 参照 ・聴覚器の構造と機能について説明できる。	益田 健史
18	前期 (4月～9月)	「感覚系(2)」 感覚系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「視覚など」 標準テキスト P.92 参照 ・視覚器の構造と機能について説明できる。	益田 健史

19	前期 (4月～9月)	「内分泌系（１）」 内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「下垂体前葉・後葉」 標準テキスト P.139 参照 ・下垂体後葉より分泌されるホルモンについて説明できる。	益田 健史
20	前期 (4月～9月)	「内分泌系（２）」 内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「甲状腺・副甲状腺」 標準テキスト P.140 参照 ・甲状腺より分泌されるホルモンの機能について説明できる。	益田 健史
21	前期 (4月～9月)	「内分泌系（３）」 内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「副腎・ラ氏島など」 標準テキスト P.141 参照 ・血糖調節を行うホルモンの名称、分泌器官、役割について説明できる。	益田 健史
22	前期 (4月～9月)	「内分泌系（４）」 内分泌系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「性腺など」 標準テキスト P.142 参照 ・女性の性周期におけるホルモンの分泌について説明できる。	益田 健史
23	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法		筆記試験（神経系・感覚器・内分泌系分野 60 点 + 生殖器系・血液・免疫系・筋・骨格系 40 点 = 合計 100 点満点）		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 本校で学習する全ての学科の基礎となる学科であるから全ての時間に出席し、集中力を維持して講義を聞くこと。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	解剖学・生理学Ⅰ【2】（Human Anatomy and PhysiologyⅠ）
担当者	小澤 勝男
単位数（時間数）	3単位（75時間 ー生殖系・血液・免疫系・筋・骨格系分野 30時間分）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版 参考書：からだが見える（人体の構造と機能）（株）メディアメディア発行

授業概要と目的
【 学習目的 】 人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 人体の構造はどのようになっており、また人体のいろいろな部分はどのように働いて我々の生物活動を維持しているのかを学ぶ。人体の構造と機能の知識は救急救命医学の基礎を成すものであるから、この学科は救急救命科のほかの科目を勉強するに先立ってしっかり習得しなければならない。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学（主に胸部外科）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。 ＊ 呼吸および循環に関係する人体の構造については解剖学・生理学Ⅱなどで学習する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「生命の維持」 5種類の栄養素を列挙し、それぞれの役割について理解する。	「栄養素」 標準テキストP.159 参照 ・糖質（炭水化物）の構成と基礎代謝のシステムについて説明できる。	小澤 勝男
2	前期 (4月～9月)	「生命の維持」 恒常性維持に関する酸塩基平衡、浸透圧などの機能について理解する。	「酸塩基平衡」 標準テキストP.161 参照 ・酸塩基平衡の役割とその調節について説明できる。	小澤 勝男
3	前期 (4月～9月)	「生殖系（1）」 生殖系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「男性生殖器」 標準テキストP.132 参照 ・男性生殖器の解剖と機能について説明できる。	小澤 勝男
4	前期 (4月～9月)	「生殖系（2）」 生殖系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「女性生殖器」 標準テキストP.132 参照 ・女性生殖器の解剖と機能について説明できる。	小澤 勝男
5	前期 (4月～9月)	「生殖系（3）」 生殖系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「性周期と月経」 標準テキストP.136 参照 ・性周期に関するホルモンについて説明できる。 ・卵巣の周期的変化について説明できる。	小澤 勝男

6	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(1)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「血液の成分・役割」 標準テキスト P.143 参照 ・血液系の役割(酸素と二酸化炭素の運搬など)について説明できる。	小澤 勝男
7	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(2)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「血球など」 標準テキスト P.146 参照 ・赤血球、白血球、血小板の機能について説明できる。	小澤 勝男
8	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(3)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「血漿など」 標準テキスト P.146 参照 ・造血における骨髓、脾臓、胸腺における血球の産生、分化、機能、破壊について説明できる。	小澤 勝男
9	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(4)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「ＡＢＯ式血液型」 標準テキスト P.147 参照 ・ＡＢＯ式血液型の表検査と裏検査について説明できる。	小澤 勝男
10	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(5)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「止血と凝固」 標準テキスト P.147 参照 ・一次止血および二次止血の機序について説明できる。	小澤 勝男
11	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(6)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「免疫・アレルギー」 標準テキスト P.149 参照 ・自然免疫および獲得免疫の仕組みについて説明できる。	小澤 勝男
12	前期 (4月～9月)	「血液・免疫系(7)」 血液・免疫系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「免疫・アレルギー」 標準テキスト P.149 参照 ・非特異的免疫と特異的免疫の仕組みについて説明できる。	小澤 勝男
13	前期 (4月～9月)	「筋・骨格系」 筋・骨格系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「筋肉」 標準テキスト P.151 参照 ・主な骨格筋について説明できる。 ・筋収縮の仕組みについて説明できる。	小澤 勝男
14	前期 (4月～9月)	「筋・骨格系」 筋・骨格系の成り立ちを構造と役割について理解する。	「骨格」 標準テキスト P.151 参照 ・脊柱管の構造について説明できる。 ・脊柱管の生理的湾曲について説明できる。	小澤 勝男
15	前期 (4月～9月)	「皮膚」 皮膚の成り立ちを構造と役割について理解する。	「皮膚」 標準テキスト P.155 参照 ・皮膚の役割、構造、皮膚付属器の構造について説明できる。	小澤 勝男
成績評価方法		筆記試験(神経系・感覚器・内分泌系分野 60点 + 生殖器系・血液・免疫系・筋・骨格系 40点 = 合計 100点満点)		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 本校で学習する全ての学科の基礎となる学科であるから全ての時間に出席し、集中力を維持して講義を聞くこと。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	解剖学・生理学Ⅱ（Human Anatomy and PhysiologyⅡ）
担当者	小足 有紀
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。 ＊人体の構造と機能のうち呼吸系、循環系、消化器系、泌尿系について系統的に学習する。 【 授業概要 】 地球の自然環境におかれた人の生命に直接かかわる呼吸器。全身に必要な酸素と栄養素を送り、抹消組織でできた二酸化炭素、老廃物をいかに排出するかには心臓と腎臓が大きな役割を果たし、そして身体の構造を維持するためにはどのような栄養素が人体にとりこまれているかについて正常の解剖と生理を学ぶ。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学（主に胸部・腹部外科）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「呼吸系(1)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「内呼吸と外呼吸」標準テキストP.98参照 ・呼吸系の役割を内呼吸と外呼吸で説明できる。	小足 有紀
2	前期 (4月～9月)	「呼吸系(2)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「気道」標準テキストP.98参照 ・気道の構造を上気道と下気道に分けて説明できる。 ・気道の機能を気管・気管支などに分けて説明できる。	小足 有紀
3	前期 (4月～9月)	「呼吸系(3)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「小児の気道」標準テキストP.101参照 ・成人と小児の気道の構造と特徴の違いについて説明できる。	小足 有紀
4	前期 (4月～9月)	「呼吸系(4)」 呼吸系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「胸郭・肺」標準テキストP.102参照 ・呼吸を駆動する仕組みを胸郭、胸膜、胸腔、呼吸筋の解剖学的見地から説明できる。	小足 有紀
5	前期 (4月～9月)	「循環系(1)」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「心臓」標準テキストP.108参照 ・心臓の構造と機能について説明できる。 ・刺激電動系の経路について説明できる。	小足 有紀

6	前期 (4月～9月)	「循環系（２）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「冠循環・脈管」 標準テキスト P.114 参照 ・動脈・静脈・毛細血管・リンパ管の解剖と役割について説明できる。	小足 有紀
7	前期 (4月～9月)	「循環系（３）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「循環の制御」 標準テキスト P.117 参照 ・自律神経系（交感神経・副交感神経）による循環の制御について説明できる。	小足 有紀
8	前期 (4月～9月)	「循環系（４）」 循環系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「心臓のポンプ機能」 標準テキスト P.115 参照 ・心臓のポンプ機能である前負荷と後負荷、心拍出量について説明できる。	小足 有紀
9	前期 (4月～9月)	「消化器系（１）」 消化器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「消化管」 標準テキスト P.122 参照 ・食道、胃、小腸、大腸の構造と機能について説明できる。	小足 有紀
10	前期 (4月～9月)	「消化器系（２）」 消化器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「肝・胆・膵・脾」 標準テキスト P.126 参照 ・肝臓、胆道系の役割と解剖について説明できる。 ・膵臓の内分泌機能と外分泌機能について説明できる。	小足 有紀
11	前期 (4月～9月)	「泌尿器系（１）」 泌尿器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「腎 臓」 標準テキスト P.129 参照 ・腎臓の解剖および腎を構成する糸球体や尿細管などの組織から機能について説明できる。	小足 有紀
12	前期 (4月～9月)	「泌尿器系（２）」 泌尿器系の解剖学・生理学における構造と役割について理解する。	「生殖器」 標準テキスト P.132 参照 ・男性生殖器および女性生殖器の解剖と機能について説明できる。	小足 有紀
13	前期 (4月～9月)	「まとめ」 これまでの講義内容の総合的な内容について総合的に理解する。	今までの学習内容が理解できているか確認・復習する。	小足 有紀
14	前期 (4月～9月)	「まとめ」 これまでの講義内容の総合的な内容について総合的に理解する。	今までの学習内容が理解できているか確認・復習する。	小足 有紀
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	小足 有紀
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 図譜を見て興味をいだき復習すること。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	生化学 (Biochemistry)
担当者	竹内 章夫
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 参考書：わかりやすい生化学 第 3 版・シンプル生化学 改訂第 4 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 我々は生命・身体の維持、成長のため種々の栄養素を取り入れ、不要のものを排泄する動的平衡状態にある。この生きるということを支えている物質について分子レベルでの理解を深めるため、生体を構成する糖質・脂質・タンパク質・核酸の構造と性質、およびこれら生体物質の代謝過程について講義する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期 (4 月～9 月)	「生化学とは」 生物に関係する物質の構造と反応に関する 化学について理解する。	「人体における生体化学」 ・生体の構成物質が説明できる。 ・代謝による変化が説明できる。	竹内 章夫
2	前 期 (4 月～9 月)	「糖 質」 糖質の基本構造と性質・役割について理解 する。	「糖質の化学」 救命士標準テキスト P.159 参照 ・糖質の役割が説明できる。 ・代謝による変化が説明できる。	竹内 章夫
3	前 期 (4 月～9 月)	「脂 質」 脂質の種類・役割について理解する。	「脂質の化学」 救命士標準テキスト P.159 参照 ・脂質の種類が説明できる。 ・脂質の役割が説明できる。	竹内 章夫
4	前 期 (4 月～9 月)	「蛋白質」 蛋白質の基本構造と役割について理解する。	「蛋白質の化学」 救命士標準テキスト P.159 参照 ・アミノ酸の種類が説明できる。 ・蛋白質の役割が説明できる。	竹内 章夫
5	前 期 (4 月～9 月)	「核 酸」 核酸の種類と基本構造について理解する。	「核酸と遺伝」 救命士標準テキスト P.56 参照 ・核酸の構造について説明できる。 ・核酸の種類について説明できる。	竹内 章夫
6	前 期 (4 月～9 月)	「水と無機質」 無機物の種類と役割について理解する。	「無機質の化学」 救命士標準テキスト P.60 参照 ・ナトリウムの役割について説明できる。 ・カルシウムの役割について説明できる。	竹内 章夫

7	前期 (4月～9月)	「酵 素」 酵素の種類と役割について理解する。	「酵素の機能と役割」 ・酵素の種類（脱水素酵素など）を説明できる。 ・解糖系における乳酸脱水素酵素の変化を説明できる。	竹内 章夫
8	前期 (4月～9月)	「糖質代謝」 糖質代謝の役割と糖質の変化について理解する。	「解糖」 救命士標準テキスト P.160 参照 ・ブドウ糖 1 分子の糖質代謝の過程を説明できる。	竹内 章夫
9	前期 (4月～9月)	「脂質代謝」 脂質代謝の役割と脂質の変化について理解する。	「 β 酸化」 救命士標準テキスト P.160 参照 ・脂質代謝の過程を説明できる。	竹内 章夫
10	前期 (4月～9月)	「蛋白質代謝」 蛋白質代謝の役割と蛋白質の変化について理解する。	「アミノ基転移」 救命士標準テキスト P.161 参照 ・蛋白質代謝の過程を説明できる。	竹内 章夫
11	前期 (4月～9月)	「ビタミン」 ビタミンの種類と役割について理解する。	「ビタミンの機能」 救命士標準テキスト P.160 参照 ・脂溶性ビタミンの種類について説明できる。 ・水溶性ビタミンの種類（B 群、C など）を説明できる。	竹内 章夫
12	前期 (4月～9月)	「ホルモン」 ホルモンの役割について理解する。	「内分泌の役割」 救命士標準テキスト P.139 参照 ・ホルモンにおけるフィードバック機構について説明できる。	竹内 章夫
13	前期 (4月～9月)	「ヘム代謝」 ヘム代謝の役割と仕組みについて理解する。	「ヘムと赤血球」 救命士標準テキスト P.144 参照 ・ヘモグロビンの構造と機能について説明できる。	竹内 章夫
14	前期 (4月～9月)	「糖尿病・ガン細胞」 糖尿病の発生機序および悪性腫瘍の特徴について理解する。	「糖尿病の発生機序」 救命士標準テキスト P.605 参照 ・糖尿病とインスリンとの関係性について説明できる。 ・糖尿病の分類とそれぞれの病態について説明できる。	竹内 章夫
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	竹内 章夫
成績評価方法		国家試験出題形式（5 肢択一式問題）の筆記試験 100 点満点		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 復習が重要。各代謝物質間の繋がりと流れを理解すると良い。代謝物質名は覚えるしかありません。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	病理学・法医学 — 病理学分野 — (Pathology)
担当者	益田 健史
単位数 (時間数)	2 単位 (病理学分野 38 時間 + 法医学分野 12 時間 = 合計 50 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 特になし (プリントを配布します)

授業概要と目的
【 学習目的 】 疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 病理学は疾患の基本を扱うことから、分野を問わず医療に関わる者にとって欠かすことの出来ない学問体系である。しかし他の基礎医学と比較すると全てのヒト疾患をカバーしなくてはならず、その範囲は極めて広い。この講義では、個々の疾病を掘り下げるのではなく、病理学総論を効率よく分かりやすく学び、理解することを目標とする。 なお、医師として医療機関などで基礎医学 (主に病理学) に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「病理学」 病理学の概要について理解する。	「病理学概論」 ・病理学の目的を説明できる。	益田 健史
2	前期 (4月～9月)	「疾患(1)」 疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。	「遺伝性疾患」 救命士標準テキスト P.165 参照 ・ダウン症候群について説明できる。 ・ターナー症候群について説明できる。	益田 健史
3	前期 (4月～9月)	「疾患(2)」 疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。	「先天障害など」 救命士標準テキスト P.166 参照 ・先天性風疹症候群について説明できる。 ・ダウン症候群について説明できる。	益田 健史
4	前期 (4月～9月)	「疾患(3)」 疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。	「発症と経過」 救命士標準テキスト P.167 参照 ・急性疾患と慢性疾患の違いについて説明できる。	益田 健史
5	前期 (4月～9月)	「疾患(4)」 疾患の概要について理解する。 疾患の原因について理解する。	「疾病の予防」 救命士標準テキスト P.169 参照 ・一次予防、二次予防、三次予防の具体例とその内容について説明できる。	益田 健史

6	前期 (4月～9月)	「細胞障害（１）」 退行性病変と進行性病変について理解する。	「退行性病変」 救命士標準テキスト P.170～参照 ・壊死について説明できる。 ・アポトーシスについて説明できる。	益田 健史
7	前期 (4月～9月)	「細胞障害（２）」 退行性病変と進行性病変について理解する。	「退行性病変」 救命士標準テキスト P.170～参照 ・変性について説明できる。 ・萎縮について説明できる。	益田 健史
8	前期 (4月～9月)	「炎症（１）」 炎症の定義と原因について理解する。	「炎症」 救命士標準テキスト P.174 参照 ・炎症の四徴候について説明できる。	益田 健史
9	前期 (4月～9月)	「炎症（２）」 炎症の定義と原因について理解する。	「炎症」 救命士標準テキスト P.175 参照 ・炎症反応について説明できる。	益田 健史
10	前期 (4月～9月)	「感染（１）」 感染症の定義と原因について理解する。	「感染症」 救命士標準テキスト P.177 参照 ・外毒素と内毒素について説明できる。 ・微生物の種類について説明できる。	益田 健史
11	前期 (4月～9月)	「感染（２）」 感染症の定義と原因について理解する。	「感染症」 救命士標準テキスト P.179 参照 ・感染経路について説明できる。 ・日和見感染症について説明できる。	益田 健史
12	前期 (4月～9月)	「循環障害（１）」 循環障害の原因と病態、種類について理解する。	「虚血・うっ血」 救命士標準テキスト P.181 参照 ・虚血と梗塞の違いについて説明できる。 ・うっ血と充血の違いについて説明できる。	益田 健史
13	前期 (4月～9月)	「循環障害（２）」 循環障害の原因と病態、種類について理解する。	「出血・血栓と塞栓」 救命士標準テキスト P.183 参照 ・血栓と塞栓の違いについて説明できる。	益田 健史
14	前期 (4月～9月)	「循環障害（３）」 循環障害の原因と病態、種類について理解する。	「浮腫」 救命士標準テキスト P.182 参照 ・浮腫の発生と代表的な疾患について説明できる。 ・毛細血管内外における水分移動について説明できる。	益田 健史
15	前期 (4月～9月)	「腫瘍（１）」 腫瘍の種類、発がんの仕組みなどについて理解する。	「腫瘍の種類」 救命士標準テキスト P.186 参照 ・良性と悪性の違いについて説明できる。	益田 健史
16	前期 (4月～9月)	「腫瘍（２）」 腫瘍の種類、発がんの仕組みなどについて理解する。	「腫瘍の特徴」 救命士標準テキスト P.187 参照 ・悪性腫瘍の転移について説明できる。	益田 健史
17	前期 (4月～9月)	「代謝障害（１）」 代謝障害の種類、病態について理解する。	「電解質の異常」 救命士標準テキスト P.612 参照 ・高ナトリウム血症の原因、症状について説明できる。 ・高カリウム血症の原因、症状について説明できる。	益田 健史
18	前期 (4月～9月)	「代謝障害（２）」 代謝障害の種類、病態について理解する。	「酸塩基平衡異常」 救命士標準テキスト P.613 参照 ・アシドーシスとアルカローシスについて説明できる。	益田 健史

19	前 期 (4 月～9 月)	「創傷治癒」 一次治癒・二次治癒について理解する。	「創傷・骨折の治癒」 救命士標準テキスト P.192 参照 ・一次性治癒と二次性治癒の違いが説明できる。	益田 健史
成績評価方法		筆記試験 病理学分野 76 点＋法医学分野 24 点＝合計 100 点満点		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 疾病を理解すること。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	病理学・法医学 — 法医学分野 — (Pathology)
担当者	妹尾 洋
単位数 (時間数)	2 単位 (病理学分野 38 時間 + 法医学分野 12 時間 = 合計 50 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト(第 10 版) 8 損傷 & 9 死 特になし

授業概要と目的
【 学習目的 】 疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 疾患のうち、特に外傷の起こり方と起こった傷の違いを認識する。また交通事故に多くみられる損傷も勉強する。 また、一般的に人の死を考察し、自然の経過で死のあと人の組織がどう変化して行くのかを学ぶ。 なお、医師（医学博士）として研究機関などで法医学（司法解剖）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前 期 (4 月～9 月)	「損傷」 損傷の原因について理解する。	「損傷」 救命士標準テキスト P.191 参照 ・開放性・非開放性の創傷の違いを説明できる。	妹尾 洋
2	前 期 (4 月～9 月)	「創傷治癒」 一次治癒・二次治癒について理解する。	「創傷・骨折の治癒」 救命士標準テキスト P.192 参照 ・一次性治癒と二次性治癒の違いが説明できる。	妹尾 洋
3	前 期 (4 月～9 月)	「損傷の種類」 鋭器損傷・鈍器損傷などについて理解する。	「創傷の種類」 救命士標準テキスト P.695 参照 ・切創の特徴について説明できる。 ・杵創の特徴について説明できる。	妹尾 洋
4	前 期 (4 月～9 月)	「損傷の種類」 特殊な損傷について理解する。	「特殊な損傷」 救命士標準テキスト P.699 参照 ・デコルマンについて説明できる。 ・デグロウピングについて説明できる。	妹尾 洋
5	前 期 (4 月～9 月)	「死の概念・死の判定・死亡原因」 心臓死・脳死について理解する。	「心臓死・脳死など」 救命士標準テキスト P.194 参照 ・心臓死の三徴候について説明できる。 ・心臓死と脳死の違いについて説明できる。	妹尾 洋
6	前 期 (4 月～9 月)	「死体現象」 主な死体現象について理解する。	「早期死体現象など」 救命士標準テキスト P.194 参照 ・死斑の特徴について説明できる。 ・死後硬直の特徴について説明できる。	妹尾 洋

成績評価方法	筆記試験 病理学分野 76 点＋法医学分野 24 点＝合計 100 点満点 マルチプルチョイス式試験（予定）
準備学習など	【 講師からのアドバス 】 特になし

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	保健医療制度・社会保障と社会福祉 （ Public Health and Social Security ）
担当者	平松 礼司
単位数（時間数）	3単位（ 45時間 ）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版 わかりやすい公衆衛生学（第4版）・国民衛生の動向

授業概要と目的
【 学習目的 】 公衆衛生の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。 【 授業概要 】 個人及び集団の健康の維持・増進を目的として、健康を脅かす要因について解説するとともに、疾病の予防についても講義していく。また、人の健康を脅かす要因は年齢により異なるため、乳幼児から児童の学校保健、労働衛生、高齢者対策にいたるまで幅広く年齢別に講義する。さらに現在の少子高齢社会では医療費の問題を始め社会保障費に大きな影響のあること及び救急救命士が持つべき生命倫理についても講義していく。 なお、薬剤師（薬学博士）として研究機関などで公衆衛生学などに関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「公衆衛生（序論）」 公衆衛生の定義、仕組みなどについて理解する。	「公衆衛生の定義」 救命士標準テキスト P.21～参照 ・「公衆衛生」について説明できる。	平松 礼司
2	後期 (10月～3月)	「公衆衛生の仕組み」 健康の定義について理解する。	「健康の定義」 救命士標準テキスト P.20 参照 ・「健康」について説明できる。	平松 礼司
3	後期 (10月～3月)	「医療を取り巻く環境」 人口構造の変化について理解する。	「人口構造の変化」 救命士標準テキスト P.23 参照 ・少子高齢社会の要因について説明できる。 ・死亡順位（1位～10位）について説明できる	平松 礼司
4	後期 (10月～3月)	「医療を取り巻く環境」 疾病構造の変化について理解する。	「疾病構造の変化」 救命士標準テキスト P.26 参照 ・死因と推移について説明できる。 ・生活習慣病による疾病構造の変化を説明できる。	平松 礼司
5	後期 (10月～3月)	「医療を取り巻く環境」 疾病構造の変化について理解する。	「感染症の状況」 救命士標準テキスト P.29 参照 ・感染症における疾病構造の変化を説明できる。 ・新型コロナウイルス感染症の特徴について説明できる。	平松 礼司

6	後 期 (10月～3月)	「医療供給体制」 保健医療従事者などの医療供給体制について理解する。	「医療機関のあり方」 標準テキスト P.31 参照 ・ 病院と診療所の違いについて説明できる。	平松 礼司
7	後 期 (10月～3月)	「医療供給体制」 保健医療従事者などの医療供給体制について理解する。	「在宅医療など」 救命士標準テキスト P.30 参照 ・ 在宅医療の内容について説明できる。 ・ 地域包括ケアについて説明できる。	平松 礼司
8	後 期 (10月～3月)	「医療供給体制」 保健医療従事者などの医療供給体制について理解する。	「医療法と医療計画」 救命士標準テキスト P.30 参照 ・ 5 疾病 5 事業について説明できる。 ・ 医療従事者の業務内容について説明できる。	平松 礼司
9	後 期 (10月～3月)	「環境保健の仕組み」 食品衛生および公害と環境について理解する。	「食品衛生」 救命士標準テキスト P.33 参照 ・ 最も多い食中毒の原因について説明できる。	平松 礼司
10	後 期 (10月～3月)	「労働衛生の仕組みなど」 労働衛生・学校保健・母子保健を支える仕組みなどについて理解する。	「労働衛生など」 救命士標準テキスト P.34 参照 ・ 労働者災害補償保険と健康保険の違いについて説明できる。	平松 礼司
11	後 期 (10月～3月)	「高齢者・精神保健福祉を支える仕組み」 高齢者などを支える仕組みについて理解する。	「精神保健福祉法など」 標準テキスト P.37 参照 ・ 精神保健福祉法における入院形態に	平松 礼司
12	後 期 (10月～3月)	「社会保障と社会福祉」 社会保障の仕組み、各種保険制度について	「社会保障・社会福祉」 標準テキスト P.40 参照 ・ 国家扶助の概要について説明できる。 ・ 福祉事務所の役割について説明できる。	平松 礼司
13	後 期 (10月～3月)	「社会保険と制度」 各種保険制度の種類と内容について理解する。	「介護保険制度」 救命士標準テキスト P.44 参照 ・ 第 1 号被保険者と第 2 号被保険者の違いについて説明できる。	平松 礼司
14	後 期 (10月～3月)	「社会保険と制度」 各種保険制度の種類と内容について理解する。	「年金保険制度」 救命士標準テキスト P.45 参照 ・ 国民年金（基礎年金）と厚生年金保険について説明できる。	平松 礼司
15	後 期 (10月～3月)	「社会福祉と制度」 各種保険制度の種類と内容について理解する。	「生活保護・児童福祉」 標準テキスト P.46 参照 ・ 生活保護法の扶助内容について説明できる。 ・ 高齢者、児童虐待の種類について説明できる。	平松 礼司
16	後 期 (10月～3月)	「人間と人間生活」 救命士に求められる「人間とは何か」という思考について理解する。	「人間の身体と心」 救命士標準テキスト P.4～参照 ・ 人間の「身体」と「心」について概要を説明できる。	平松 礼司
17	後 期 (10月～3月)	「科学的思考の基礎」 救命士に求められる科学的思考の基礎について理解する。	「科学的思考」 救命士標準テキスト P.8～参照 ・ 科学における「客観性」について概要を説明できる。	平松 礼司
18	後 期 (10月～3月)	「生命倫理と医の倫理」 救命士に求められる生命倫理の基礎について理解する。	「生命倫理に関する原則」 標準テキスト P.12 参照 ・ 生命倫理の 4 つの原則について概要を説明できる。 ・ インフォームドコンセントについて説明できる	平松 礼司

19	後 期 (10月～3月)	「救急救命士の職業倫理」 救命士に求められる職業倫理の基礎について理解する。	「救急救命士の職業倫理」 標準テキスト P.16 参照 ・救急救命士の責務について概要を説明できる。 ・救急救命士の職業倫理について説明できる	平松 礼司
20	後 期 (10月～3月)	「まとめ」 「保健医療制度・社会保障と社会福祉」の内容を復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救命士標準テキストに記載されている保健医療制度・社会保障と社会福祉の内容について説明できる。	平松 礼司
21	後 期 (10月～3月)	「まとめ」 「保健医療制度・社会保障と社会福祉」の内容を復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救命士標準テキストに記載されている保健医療制度・社会保障と社会福祉の内容について説明できる。	平松 礼司
22	後 期 (10月～3月)	「まとめ」 「保健医療制度・社会保障と社会福祉」の内容を復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救命士標準テキストに記載されている保健医療制度・社会保障と社会福祉の内容について説明できる。	平松 礼司
23	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	平松 礼司
成績評価方法		筆記試験（100点満点）＋α（授業態度・出席状況など）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 公衆衛生に関する問題は、我が国ばかりではなく国際的な問題として広がっている。これらの問題に関心を持ち、講義とともに新聞等の正確なメディアの情報から積極的に理解していく姿勢が大切である。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	救急医学概論 (Emergency Introduction)
担当者	石河 康司 大竹 宗也
単位数(時間数)	2単位(40時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的な考え方を理解する。地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。 【 授業概要 】 救急救命士の役割、責任をよく認識し、それに必要な法律・救急医療体制・病院前救護体制などにつき熟知すること。また、医療従業者の一員として生命倫理についても知識を身につけてください。その上、危惧されている地震発生時などの災害医療についても対応できる知識をつけてください。 なお、救急救命士として消防機関などで救急医療に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「生命倫理と医の倫理」 日常的な業務における倫理的な意義について理解する。	「生命倫理の原則」 救命士標準テキストP.12 参照 ・救急救命士における「善行の法則」について具体例をふまえて説明できる。	石河 康司
2	前期 (4月～9月)	「生命倫理と医の倫理」 日常的な業務における倫理的な意義について理解する。	「傷病者の権利など」 救命士標準テキストP.14 参照 ・救急医療におけるインフォームドコンセントの特徴について説明できる。	石河 康司
3	前期 (4月～9月)	「救急医療体制」 わが国の救急搬送の現状について理解する。	「救急業務の沿革」 救命士標準テキストP.218 参照 ・救急自動車による発生場所別搬送人員割合の内訳について説明できる。	石河 康司
4	前期 (4月～9月)	「救急医療体制」 わが国の救急搬送の現状について理解する。	「病院前救護体制」 救命士標準テキストP.220 参照 ・応急救護体制、救急搬送体制について説明できる。	石河 康司
5	前期 (4月～9月)	「病院前医療体制」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「救急受け入れ体制」 標準テキストP.225 参照 ・初期、二次、三次の役割と要件について説明できる。 ・周産期救急医療体制などについて説明できる。	石河 康司

6	前期 (4月～9月)	「病院前医療体制」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「メディカルコントロール」 救命士標準テキスト P.228 参照 ・メディカルコントロールの概念、コア業務、具体的な内容などについて説明できる。	石河 康司
7	前期 (4月～9月)	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「災害医療の概念」 救命士標準テキスト P.232 参照 ・災害の概念、分類について説明できる。 ・CSCATTT の内容について説明できる。	石河 康司
8	前期 (4月～9月)	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「トリアージ」 救命士標準テキスト P.234 参照 ・START 変法について説明できる。 ・PAT 法について説明できる。	石河 康司
9	前期 (4月～9月)	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「大規模災害」 標準テキスト P.238 参照 ・DMAT の構成や活動内容について説明できる。 ・要配慮者（災害弱者）について説明できる。	石河 康司
10	前期 (4月～9月)	「災害医療体制」 わが国の災害発生時の対応について理解する。	「特殊災害」 救命士標準テキスト P.243 参照 ・CBRNE 災害の内容について説明できる。 ・ゾーニングについて説明できる。	石河 康司
11	前期 (4月～9月)	「消防機関における救急活動の流れ」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「受信と通信体制（１）」 標準テキスト P.245 参照 ・通信指令業務を説明できる。 ・救急搬送時の医療機関への報告内容を説明できる。	大竹 宗也
12	前期 (4月～9月)	「消防機関における救急活動の流れ」 わが国の病院前医療体制について理解する。	「受信と通信体制（２）」 標準テキスト P.245 参照 ・119 番通報の質問内容について説明できる。 ・通信指令員の口頭指導について説明できる。	大竹 宗也
13	前期 (4月～9月)	「救急活動時のコミュニケーション」 コミュニケーションをとる際の注意点について説明できる	「接遇など」 救命士標準テキスト P.253 参照 ・コミュニケーションの種類が説明できる。	大竹 宗也
14	前期 (4月～9月)	「救急活動時のコミュニケーション」 コミュニケーションをとる際の注意点について説明できる	「インフォームドコンセント」 テキスト P.253 参照 ・インフォームドコンセントについて説明できる。	大竹 宗也
15	前期 (4月～9月)	「救急救命士の生涯教育」 救急救命士の自己研鑽などの概要について理解する。	「救急救命士の教育」 標準テキスト P.271 参照 ・病院実習の心構えについて説明できる。 ・救急ワークステーションについて説明できる。	大竹 宗也
16	前期 (4月～9月)	「安全管理と事故対応」 救急救命士における安全管理と事故対応について理解する。	「インシデントとアクシデント」 P.276 ・医療事故と医療過誤の違いについて説明できる。 ・ハインリッヒの法則について説明できる。	大竹 宗也
17	前期 (4月～9月)	「感染対策」 標準予防策の意義と内容および救急車内の消毒方法などについて理解する。	「標準予防策」 救命士標準テキスト P.282 参照 ・標準予防策について説明できる。 ・清潔と不潔の違いについて説明できる。	大竹 宗也
18	前期 (4月～9月)	「ストレスに対するマネージメント」 救急活動でのストレスへのマネージメントなどについて理解する。	「救急活動でのストレス」 標準テキスト P.294 参照 ・デフィージングとデブリーフィングの違いについて説明できる。	大竹 宗也

19	前 期 (4 月～9 月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大竹 宗也
20	前 期 (4 月～9 月)	「試験の解答・解説」	試験フィードバック後にこれまでの学習内容について正しく説明できる。	石河 康司 大竹 宗也
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 目指す救急救命士の立場を理解し、必要なものをしっかりと身につけて下さい。		

学科・年次	救急救命科 1 年次
科目名	観察と評価 (Observation and Evaluation)
担当者	廣崎 英和
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 生命倫理と医の倫理（インフォームドコンセントを含む）の基本的な考え方を理解する。地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。 【 授業概要 】 1. 生命徴候（バイタルサイン）について理解し、その観察と評価を実際に行う事ができる。 2. 呼吸・循環・意識についてそれらの正常な状態（正常値）を知り、異常な場合にはどのような異常かを観察・指摘し、判断することができる。 3. 運動・知覚・言語について正常な状態を理解し、異常な場合にはどのような異常かを指摘し判断できる。 4. 人体の各部位（頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢など）の観察が実行でき、異常があればそれを指摘し判断することができる。 なお、救急救命士として消防機関などで救急医療に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10 月～3 月)	「観察総論」 救急救命士が傷病者の観察に用いる手段について理解する。	「問 診」 救命士標準テキスト P.300 参照 ・ SAMPLE・GUMBA などの救急現場で聴取すべき情報について説明できる。	廣崎 英和
2	後 期 (10 月～3 月)	「観察総論」 救急救命士が傷病者の観察に用いる手段について理解する。	「視診・聴診・触診」 救命士標準テキスト P.302 参照 ・ バイタルサインの測定方法について説明できる。 ・ 呼吸音減弱の解剖学的な根拠に説明できる。	廣崎 英和
3	後 期 (10 月～3 月)	「救急活動の基本」 救急隊の出場から現場到着までの一連の活動について理解する。	「全身観察」 救命士標準テキスト P.304 参照 ・ 傷病者の解剖学的評価の方法について説明できる。	廣崎 英和
4	後 期 (10 月～3 月)	「救急活動の基本」 救急隊の出場から現場到着までの一連の活動について理解する。	「搬送・車内活動」 ・ 車内活動時の「継続観察」と「詳細観察」との違いについて説明できる。	廣崎 英和

5	後 期 (10月～3月)	「全身・外見の観察」 外見上の観察すべき項目の緊急度・重症度を 示す症候について理解する。	「体位・歩行など」 救命士標準テキスト P.304 参照 ・起坐位を呈する傷病者の推測できる症候について説明できる。	廣崎 英和
6	後 期 (10月～3月)	「全身・外見の観察」 外見上の観察すべき項目の緊急度・重症度を 示す症候について理解する。	「呼吸・循環の観察」 救命士標準テキスト P.305 参照 ・心停止前後に認める傷病者の呼吸状態について説明できる。	廣崎 英和
7	後 期 (10月～3月)	「バイタルサインの観察」 バイタルサインの観察すべき項目の緊急度・重症度を 示す症候について理解する。	「循環の観察」 救命士標準テキスト P.307 参照 ・頻脈を呈する疾病などについて説明できる。 ・徐脈を呈する疾病などについて説明できる。	廣崎 英和
8	後 期 (10月～3月)	「バイタルサインの観察」 バイタルサインの観察すべき項目の緊急度・重症度を 示す症候について理解する。	「意識の観察」 救命士標準テキスト P.310 参照 ・JCS による意識の評価方法について説明できる。	廣崎 英和
9	後 期 (10月～3月)	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「頭部・頸部などの観察」 標準テキスト P.314 参照 ・末梢性顔面麻痺の観察所見について説明できる。 ・縮瞳を呈する原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
10	後 期 (10月～3月)	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「神経学的評価」 救命士標準テキスト P.322 参照 ・髄膜刺激症状の身体所見について説明できる。	廣崎 英和
11	後 期 (10月～3月)	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「胸部の観察」 救急救命士標準テキスト P.316 参照 ・湿性ラ音を呈する原因疾患について説明できる。 ・心音 I 音および II 音について説明できる。	廣崎 英和
12	後 期 (10月～3月)	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「腹部の観察」 救急救命士標準テキスト P.317 参照 ・マックバーネー一点について説明できる。 ・腹膜刺激症状について説明できる。	廣崎 英和
13	後 期 (10月～3月)	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「鼠径部・四肢などの観察」 テキスト P.319 参照 ・骨折時の観察所見について説明できる。	廣崎 英和
14	後 期 (10月～3月)	「局所の観察」 身体の各部位ごとの観察すべき項目と観察方法について理解する。	「手指・足趾などの観察」 テキスト P.320 参照 ・ばち指を呈する原因疾患について説明できる。	廣崎 英和
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	廣崎 英和
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 救急現場で遭遇する傷病者を適切に評価し、適切な応急処置と搬送が出来るようになることが目標である。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	救急処置・搬送【Emergency Treatment and Transportation】
担当者	石河 康司
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版 参考書：救急処置スキルマスター

授業概要と目的
【学習目的】 生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的な考え方を理解する。 地域における救急救命士の役割及びメディカルコントロール体制について理解する。救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る適応や合併症、医療事故対策について理解する。使用できる薬剤の効果や副作用について理解する。 【授業概要】 救急救命士が現場で行う救急救命処置の基本技術の理論と実際について講義する。 また、特定行為の根拠を学び、観察から処置の基本技術の理論と実際について講義する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「資器材による観察」 資器材の取扱いを理解する。	「パルスオキシメーター」 救命士標準テキスト P.332～337 ・使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について、それぞれ説明できる。	石河 康司
2	前期 (4月～9月)	「資器材による観察」 資器材の取扱いを理解する。	「血糖測定器」 救命士標準テキスト P.337～343 ・使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価について、それぞれ説明できる。	石河 康司
3	前期 (4月～9月)	「救急救命士が行う処置」 それぞれの処置について理解する。	「用手的気道確保」など 救命士標準テキスト P.345～351 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
4	前期 (4月～9月)	「救急救命士が行う処置」 それぞれの処置について理解する。	「声門上気道デバイス」など 救命士標準テキスト P.345～351 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
5	前期 (4月～9月)	「気管挿管」 気管挿管について理解する。	「気管挿管を用いた気道確保」 救命士標準テキスト P.358～368 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司

6	前期 (4月～9月)	「酸素投与」 気管吸引、酸素投与の方法を理解する。	「リザーバ付フェイスマスク」など 標準テキスト P368～371 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
7	前期 (4月～9月)	「胸骨圧迫」「AED」 胸骨圧迫の方法、AED の取扱いなどについて理解する。	「胸骨圧迫・AED」など 救命士標準テキスト P372～378 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
8	前期 (4月～9月)	「静脈路確保と輸液」 静脈路確保と輸液の取扱いを理解する。	「静脈路確保と輸液プロトコール」など テキスト P383～388 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
9	前期 (4月～9月)	「ブドウ糖の投与」「体位管理」 ブドウ糖の投与、体位管理の方法を理解する。	「血糖測定とブドウ糖溶液の投与」など 標準テキスト P392～398 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
10	前期 (4月～9月)	「止血」「創傷処置」 創傷処置、止血、固定の方法を理解する。	「直接圧迫止血」「止血帯止血法」など 標準テキスト P398～415 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
11	前期 (4月～9月)	「救急蘇生法」 蘇生ガイドラインについて理解する。	「成人・小児・乳児の救急蘇生法」 標準テキスト P419～428 ・心肺蘇生のプロトコール、アルゴリズムについて説明できる。	石河 康司
12	前期 (4月～9月)	「在宅療法継続中の処置」 在宅療法継続中の傷病者の処置を理解する。	「在宅酸素療法」など 救命士標準テキスト P429～435 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
13	前期 (4月～9月)	「傷病者搬送（１）」 傷病者搬送の方法を理解する。	「体位変換」など 救命士標準テキスト P436～451 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
14	前期 (4月～9月)	「傷病者搬送（２）」 傷病者搬送の方法を理解する。	「徒手搬送」など 救命士標準テキスト P436～451 ・使用方法、目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明できる。	石河 康司
15	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	石河 康司
成績評価方法		国家試験出題形式（択一式問題）の筆記試験 100 点満点で評価する。		
準備学習など		講義実施日までに、シラバスに記載された救急救命士標準テキストの内容を予習しておくこと。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	検査／放射線医学 ― 検査学分野 ― (Diagnosis and clinical examination)
担当者	小足 有紀
単位数(時間数)	1単位(検査学分野12時間 + 放射線医学分野8時間 = 合計20時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。 【 授業概要 】 患者が示す異常の原因を発見する重要な手段である生体検査、検体検査の種類とその意味を理解する。 なお、医師(医学博士)および救急救命士として医療機関などで基礎医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「検体検査」 動脈血液ガス検査の目的、基準値について理解する。	「動脈血液ガス検査」標準テキストP.211参照 ・PaO ₂ 値・PaCO ₂ 値の基準値について説明できる。 ・酸塩基平衡について説明できる。	小足 有紀
2	後期 (10月～3月)	「検体検査」 血液検査・血液型の検査の目的などについて理解する。	「血液型検査」配布資料参照 ・オモテ試験およびウラ試験について説明できる。	小足 有紀
3	後期 (10月～3月)	「生理検査・画像検査」 心電図検査などの生理検査および画像検査の目的について理解する。	「心電図検査」救命士標準テキストP.212参照 ・心筋梗塞時の特徴的な心電図波形について説明できる。	小足 有紀
4	後期 (10月～3月)	「生理検査・画像検査」 心電図検査などの生理検査および画像検査の目的について理解する。	「心電図検査」救命士標準テキストP.212参照 ・心筋梗塞時の特徴的な心電図波形について説明できる。	小足 有紀
5	後期 (10月～3月)	「検体検査(腎・肝機能検査)」 生化学検査の目的、基準値について理解する。	「生化学検査・尿検査」テキストP.212参照 ・AST・ALTなどについて説明できる。	小足 有紀
6	後期 (10月～3月)	「検体検査(腎・肝機能検査)」 生化学検査の目的、基準値について理解する。	「生化学検査・尿検査」テキストP.212参照 ・クレアチニンについて説明できる。	小足 有紀

成績評価方法	筆記試験 検査学分野 60 点＋放射線医学分野 40 点＝合計 100 点満点
準備学習など	【 講師からのアドバス 】 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	検査／放射線医学 ― 放射線医学分野 ― （Diagnosis and clinical examination）
担当者	加藤 誠
単位数（時間数）	1単位（検査学分野 12時間 + 放射線医学分野 8時間 = 合計 20時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急搬送先医療機関の選定基準および臨床実習で必要となる臨床検査の基礎知識を習得する。 【 授業概要 】 救急救命士として放射能・放射線の知識・対処を身につける。福島原発事故以来、放射線の影響については一般の関心も高くなった。放射線とはなにか、物理的障害の1つとしての放射線は、生物本来の染色体にも影響を与え、蓄積されることを教え、他とは違う対処が必要であることを学習する。 なお、診療放射線技師として医療機関などで放射線医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「放射線の基礎知識」 放射線、放射能および放射性元素について理解する。	「放射線の概要」 救命士標準テキスト P.824 参照 ・放射線の種類と透過性について説明できる。	加藤 誠
2	後期 (10月～3月)	「放射線への対応」 放射線防護に関するさまざまな知識について理解する。	「線量測定」 救命士標準テキスト P.828 参照 ・電離箱式サーベイメータの目的について説明できる。	加藤 誠
3	後期 (10月～3月)	「放射線への対応」 放射線防護に関するさまざまな知識について理解する。	「放射線防護」 救命士標準テキスト P.827 参照 ・放射線防護の三原則について説明できる。	加藤 誠
4	後期 (10月～3月)	「放射線による影響」 放射線が人体に与える影響について理解する。	「被爆と汚染」 救命士標準テキスト P.824 参照 ・被爆と汚染の違いについて説明できる。	加藤 誠
成績評価方法	筆記試験 検査学分野 60点 + 放射線医学分野 40点 = 合計 100点満点			
準備学習など	【 講師からのアドバイス 】 福島第一原発事故関連の新聞記事、特集などを参考として学習に努めてほしい。			

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	感染／安全管理 （Diagnosis and clinical examination）
担当者	森 健
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 血液・免疫系疾患：救急搬送において血液疾患や免疫の知識から、観察や処置を的確に実施できるよう学ぶ。 感染制御：病原微生物の特性と感染症を学び、傷病者を守り、医療者を守り、自らを守る感染予防策を学ぶ。 なお、薬剤師として医療機関・研究機関などで環境感染に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10月～3月)	「血液系総論」 血液系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「血液疾患の基礎」 救命士標準テキストP.617 参照 ・出血傾向について説明できる。	森 健
2	後 期 (10月～3月)	「免疫系総論」 免疫系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「免疫総論など」 救命士標準テキストP.149 参照 ・自然免疫・獲得免疫について説明できる。 ・特異的免疫・非特異的免疫について説明できる。	森 健
3	後 期 (10月～3月)	「血液系疾患各論」 血液系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「血小板減少など」 テキストP.618 参照 ・血友病の特徴について説明できる。	森 健
4	後 期 (10月～3月)	「血液系疾患各論」 血液系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「貧血など」 テキストP.618 参照 ・貧血の定義について説明できる。	森 健
5	後 期 (10月～3月)	「免疫疾患各論」 免疫系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「アレルギー疾患」 救命士標準テキストP.619 参照 ・各種アレルギーの病型について説明できる。 ・膠原病について説明できる。	森 健
6	後 期 (10月～3月)	「免疫疾患各論」 免疫系疾患の主な症候・症状・病態について理解する。	「アレルギー疾患」 救命士標準テキストP.619 参照 ・アナフィラキシーの症候とその対処などについて説明できる。	森 健

7	後 期 (10月～3月)	「感染症総論」 炎症および感染の定義と原因について理解する。	「炎症と感染」 救命士標準テキスト P.177 参照 ・炎症について説明できる。 ・感染について説明できる。	森 健
8	後 期 (10月～3月)	「感染症総論」 各種感染経路に対する標準予防策について理解する。	「感染の成り立ち」 救命士標準テキスト P.179 参照 ・不顕性感染について説明できる。 ・日和見感染症について説明できる。	森 健
9	後 期 (10月～3月)	「感染症総論」 感染症法による主な感染症の分類について理解する。	「感染症法」 救命士標準テキスト P.293 参照 ・一類感染症の種類について説明できる。 ・感染経路とその予防接種について説明できる。	森 健
10	後 期 (10月～3月)	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「インフルエンザ・結核」 救命士標準テキスト P.637 参照 ・季節性インフルエンザの症候について説明できる。 ・結核の病態について説明できる。	森 健
11	後 期 (10月～3月)	「感染症各論」 各感染症による定義と概念、疫学、種類、症候などについて理解する。	「敗血症・食中毒」 標準テキスト P.636 参照 ・敗血症の病態について説明できる。 ・腸管出血性大腸菌感染症の症候について説明できる。	森 健
12	後 期 (10月～3月)	「感染予防総論」 救急現場における標準予防策の意義と内容について理解する。	「標準予防策」 救命士標準テキスト P.282 参照 ・救急現場における標準予防策について説明できる。	森 健
13	後 期 (10月～3月)	「感染予防総論」 救急現場における標準予防策の意義と内容について理解する。	「消毒剤総論」 救命士標準テキスト P.286 参照 ・清潔と不潔の定義について説明できる。 ・消毒液使用時の注意点について説明できる。	森 健
14	後 期 (10月～3月)	「感染予防総論」 救急現場における標準予防策の意義と内容について理解する。	「消毒剤総論」 救命士標準テキスト P.286 参照 ・清潔と不潔の定義について説明できる。 ・消毒液使用時の注意点について説明できる。	森 健
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	森 健
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 講義内容を把握する。 配布資料に書き込み、内容を理解する。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	救急症候・病態生理学Ⅰ (Symptoms and PathophysiologyⅠ)
担当者	古谷 泰樹
単位数(時間数)	1単位(20時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急症候・病態生理学について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 1) 頭痛はどの組織のどのような異常で発生しているかを理解する。 2) 頭蓋内圧亢進を起こす異常の発生機序を理解する。 3) めまいを起こす変化の性質とその原因となる部位を理解する。 4) めまいの種類と性質およびそれらの関連を理解する。 5) 発熱と炎症との間の関連および熱発生機序と放散の機序との関連を理解する。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「頭痛(1)」 頭痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「要因、原因」 救命士標準テキストP.492 参照 ・ 一次性頭痛と二次性頭痛の概念、特徴について説明できる。	古谷 泰樹
2	前期 (4月～9月)	「頭痛(2)」 頭痛の原因を列挙し、それぞれの原因疾患、発生の状況について理解する。	「意識障害、頭蓋内圧亢進症候」テキストP.494 参照 ・ 頭痛に伴う随伴症候の種類、特徴的所見について説明できる。	古谷 泰樹
3	前期 (4月～9月)	「めまい(1)」 めまいの原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「定義・概念」 救命士標準テキストP.507 参照 ・ めまいの要因について概念、特徴を説明できる。 ・ 末梢性、中枢性めまいの違いについて説明できる。	古谷 泰樹
4	前期 (4月～9月)	「めまい(2)」 めまいの原因を列挙し、それぞれの原因疾患、発生の状況について理解する。	「随伴症状」 救命士標準テキストP.509 参照 ・ めまいに伴う随伴症候の種類、特徴的所見について説明できる。	古谷 泰樹
5	前期 (4月～9月)	「体温上昇(1)」 体温上昇の原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「定義・概念」 救命士標準テキストP.540 参照 ・ 体温上昇の要因について概念、特徴を説明できる。 ・ 高熱、高体温の概念、特徴について説明できる。	古谷 泰樹

6	前期 (4月～9月)	「体温上昇（２）」 体温上昇の原因を列挙し、それぞれの原因疾患、発生の状況について理解する。	「原因、緊急度・重症度など」 テキスト P.542 参照 ・高熱時の発症、進展について説明できる。	古谷 泰樹
7	前期 (4月～9月)	「体温上昇（３）」 地温上昇の原因を列挙し、それぞれの発症機序、分類について理解する。	「随伴症状」 救命士標準テキスト P.509 参照 ・体温上昇に伴う随伴症候の種類、特徴的所見について説明できる。	古谷 泰樹
8	前期 (4月～9月)	「まとめ」 頭痛・めまい・体温上昇に関する内容を復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救急救命士標準テキストに記載されている病理学の内容について説明できる。	古谷 泰樹
9	前期 (4月～9月)	「まとめ」 頭痛・めまい・体温上昇に関する内容を復習する。	「到達度確認とまとめ」 ・救急救命士標準テキストに記載されている病理学の内容について説明できる。	古谷 泰樹
10	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	古谷 泰樹
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	救急症候・病態生理学Ⅱ (Symptoms and PathophysiologyⅡ)
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	1単位(20時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急症候・病態生理学について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 人間の生命に直接かかわる機能の4本柱は「呼吸」「循環」「脳神経」そして「代謝機能」である。これらの急性失調状態で倒れているヒトのもとへいち早く駆けつけることが救急救命士の役割である。従って急性機能障害の傷病者を全身的に的確に捉え、医療機関への救急搬送および処置をふまえ、生体の4大機能の医学的知識について学習する。 なお、医師として医療機関などで基礎医学(主に病理学)に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「呼吸に関する基礎など」 呼吸運動障害などの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「呼吸運動障害の原因」 標準テキストP.456 参照 ・中枢神経系、末梢神経系、呼吸筋、胸郭の呼吸運動障害の主な原因と発生機序について説明できる。	益田 健史
2	後期 (10月～3月)	「呼吸不全の定義」 閉塞性・拘束性換気障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「CO ₂ ナルコーシスなど」 標準テキストP.457 参照 ・閉塞性換気障害を呈する疾患について説明できる。 ・拘束性換気障害を呈する疾患について説明できる。	益田 健史
3	後期 (10月～3月)	「呼吸不全：低換気」 肺胞障害などの原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「肺胞障害などの原因」 標準テキストP.456 参照 ・肺胞、肺間質の障害の主な原因と発生機序について説明できる。	益田 健史
4	後期 (10月～3月)	「呼吸不全：換気血流比異常」 閉塞性・拘束性換気障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「換気血流不均等」 救命士標準テキストP.456 参照 ・肺内シャントを呈する疾患について説明できる。 ・肺胞死腔を呈する疾患について説明できる。	益田 健史
5	後期 (10月～3月)	「呼吸困難」 呼吸困難の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「吸気性・呼気性呼吸困難」 テキストP.511 参照 ・吸気性呼吸困難を呈する疾患について説明できる。 ・呼気性呼吸困難を呈する疾患について説明できる。	益田 健史

6	後 期 (10月～3月)	「呼吸困難」 呼吸困難の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「呼吸困難時の随伴症候」 テキスト P.513 参照 ・呼吸困難で観察される特徴的な一般症状を説明し、それぞれを呈する代表疾患・病態を説明できる。	益田 健史
7	後 期 (10月～3月)	「意識障害」 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「意識障害と症状」 救命士標準テキスト P.488 参照 ・意識障害で観察される特徴的な一般症状を説明し、それぞれを呈する代表疾患・病態を説明できる。	益田 健史
8	後 期 (10月～3月)	「意識障害」 意識障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「意識障害と原因」 標準テキスト P.488 参照 ・一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の違いについて説明できる。	益田 健史
9	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
10	後 期 (10月～3月)	「試験の解答・解説」	試験フィードバック後にこれまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 疾病が起こす生体機能の変化、病態生理を理解するように努めてほしい。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	救急症候・病態生理学Ⅲ (Symptoms and PathophysiologyⅢ)
担当者	古谷 泰樹
単位数(時間数)	2単位(60時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 救急症候・病態生理学について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 痙攣、運動麻痺、めまい、呼吸困難などの症候の種類、原因疾患、病態生理学を把握することで、救急現場における観察、評価、処置に反映させていく知識を学習する。 なお、救急救命士として救急現場などで臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期 (4月～9月)	「呼吸器系の解剖と症候(1)」 呼吸器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「細胞の構造と症候」 標準テキスト P.98 参照 ・細胞の構造と低酸素血症について説明できる。 ・細胞の構造と高二酸化炭素血症について説明できる。	古谷 泰樹
2	前期 (4月～9月)	「呼吸器系の解剖と症候(2)」 呼吸器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「呼吸中枢の構造と症候」 標準テキスト P.98 参照 ・呼吸中枢の構造と低酸素血症について説明できる。 ・呼吸中枢の構造と高二酸化炭素血症を説明できる。	古谷 泰樹
3	前期 (4月～9月)	「呼吸器系の解剖と症候(3)」 呼吸器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「気道の構造と症候」 標準テキスト P.98 参照 ・気道の構造と上気道閉塞について説明できる。 ・気道の構造と下気道閉塞について説明できる。	古谷 泰樹
4	前期 (4月～9月)	「呼吸器系の解剖と症候(4)」 呼吸器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「胸郭・肺の構造と症候」 標準テキスト P.102 参照 ・胸郭の構造と呼吸筋麻痺について説明できる。 ・肺胞の構造と呼吸不全について説明できる。	古谷 泰樹
5	前期 (4月～9月)	「循環器系の解剖と症候(1)」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「血管の構造と症候」 標準テキスト P.108 参照 ・血管の構造と虚血について説明できる。	古谷 泰樹
6	前期 (4月～9月)	「循環器系の解剖と症候(2)」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「心臓の構造と症候」 標準テキスト P.108 参照 ・心臓の構造(刺激電動系)と不整脈について説明できる。	古谷 泰樹

7	前期 (4月～9月)	「循環器系の解剖と症候（３）」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「弁の構造と症候」 標準テキスト P.113 参照 ・心臓の構造と心音について説明できる。	古谷 泰樹
8	前期 (4月～9月)	「循環器系の解剖と症候（４）」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「ポンプ機能と症候」 標準テキスト P.115 参照 ・ポンプ機能と心不全について説明できる。	古谷 泰樹
9	前期 (4月～9月)	「循環器系の解剖と症候（５）」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「血圧と循環不全」 標準テキスト P.117 参照 ・血圧の構成式と循環不全について説明できる。	古谷 泰樹
10	前期 (4月～9月)	「循環器系の解剖と症候（６）」 循環器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「自律神経機能と症候」 標準テキスト P.117 参照 ・自律神経機能と循環不全について説明できる。 ・内分泌機能と循環不全について説明できる。	古谷 泰樹
11	前期 (4月～9月)	「消化器系の解剖と症候（１）」 消化器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「消化管の機能と症候」 標準テキスト P.122 参照 ・消化管の構造と内臓痛について説明できる。 ・消化管の構造と体性痛について説明できる。	古谷 泰樹
12	前期 (4月～9月)	「消化器系の解剖と症候（２）」 消化器系の解剖生理をふまえて発症機序について理解する。	「肝機能と症候」 標準テキスト P.126 参照 ・肝機能と出血傾向について説明できる。 ・肝機能と腹水について説明できる。	古谷 泰樹
13	前期 (4月～9月)	「痙 攣（１）」 痙攣の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「全身性・局所性痙攣」 標準テキスト P.498 参照 ・緊急度の高い全身性痙攣について説明できる。 ・ミオクロスムスについて説明できる。	古谷 泰樹
14	前期 (4月～9月)	「痙 攣（２）」 痙攣の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「救急現場における対応」 テキスト P.501 参照 ・痙攣中、痙攣後の救急現場における対応について説明できる。	古谷 泰樹
15	前期 (4月～9月)	「運動麻痺（１）」 運動麻痺の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「四肢麻痺」 テキスト P.503 参照 ・四肢麻痺の発生機序について説明できる。	古谷 泰樹
16	前期 (4月～9月)	「運動麻痺（２）」 運動麻痺の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「交叉性麻痺」 テキスト P.503 参照 ・交叉性麻痺の発生機序について説明できる。	古谷 泰樹
17	前期 (4月～9月)	「喀 血（１）」 喀血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「喀血の原因疾患」 標準テキスト P.516 参照 ・喀血を呈する疾患（気管支拡張症、肺結核など）について説明できる。	古谷 泰樹
18	前期 (4月～9月)	「喀 血（２）」 喀血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「喀血の判別方法」 標準テキスト P.517 参照 ・喀血に関する判別を要する病態・症状について説明できる。	古谷 泰樹
19	前期 (4月～9月)	「失 神（１）」 失神の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「神経調節性失神など」 標準テキスト P.519 参照 ・状況誘発性失神などの特徴について説明できる。 ・アダムスストークス発作の原因について説明できる。	古谷 泰樹

20	前期 (4月～9月)	「失神(2)」 失神の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「その他の失神など」 標準テキスト P.521 参照 ・椎骨脳底動脈循環不全の特徴について説明できる。 ・全身痙攣時の欠神発作について説明できる。	古谷 泰樹
21	前期 (4月～9月)	「胸痛(1)」 胸痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「体性痛・内臓痛」 標準テキスト P.522 参照 ・胸痛時の体性痛および内臓痛の解剖生理、原因疾患について説明できる。	古谷 泰樹
22	前期 (4月～9月)	「胸痛(2)」 胸痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「狭心痛」 標準テキスト P.523 参照 ・急性冠症候群で呈する特徴的な胸痛について説明できる。	古谷 泰樹
23	前期 (4月～9月)	「腹痛(1)」 腹痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「体性痛・内臓痛」 標準テキスト P.529 参照 ・腹痛時の体性痛および内臓痛の解剖生理、原因疾患について説明できる。	古谷 泰樹
24	前期 (4月～9月)	「腹痛(2)」 腹痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「既往歴・随伴症候」 標準テキスト P.531 参照 ・腹痛時の既往歴や随伴症候から考えられる原因疾患について説明できる。	古谷 泰樹
25	前期 (4月～9月)	「吐血」 吐血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「コーヒー残渣様吐物」 標準テキスト P.535 参照 ・コーヒー残渣様吐物を呈する原因疾患について説明できる。	古谷 泰樹
26	前期 (4月～9月)	「下血」 下血の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「タール様便」 標準テキスト P.535 参照 ・タール様便を呈する原因疾患について説明できる。 ・鮮血便を呈する原因疾患について説明できる。	古谷 泰樹
27	前期 (4月～9月)	「腰・背部痛(1)」 腰・背部痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「腰・背部痛の原因疾患」 テキスト P.537 参照 ・性状と随伴症状から腰痛・背部痛を訴える原因疾患について説明できる。	古谷 泰樹
28	前期 (4月～9月)	「腰・背部痛(2)」 腰・背部痛の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「レッドフラグサイン」 標準テキスト P.539 参照 ・腰痛・背部痛傷病者における要注意所見について説明できる。	古谷 泰樹
29	前期 (4月～9月)	「動悸」 動悸の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「定義・概念」 標準テキスト P.526 参照 ・動悸を呈する不整脈について説明できる。	古谷 泰樹
30	前期 (4月～9月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	古谷 泰樹
成績評価方法		筆記試験（100点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバース 】 知っている身近な幾つかの病気から知識を発展させるとよい。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	疾病救急医学Ⅰ ― 神経系疾患分野 ― (Emergency Medicine Ⅰ)
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	2単位(神経系疾患分野 24時間 + 内分泌系疾患分野 26時間 = 50時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 神経系疾患は救急搬送する傷病者の中でも意識障害を呈して本人の訴えが乏しい疾患であり、その疾病構造、病態生理をよく理解したうえで観察所見などから疾病の重篤度を読み取れるように学習する。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「解剖」 神経系の解剖生理についてその概要を理解する。	「神経の解剖」 テキストP.77 参照 ・前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉の機能について説明できる。	益田 健史
2	後期 (10月～3月)	「総論」 神経系疾患の主な症候、医療機関での検査などについて理解する。	「麻痺・意識など」 テキストP.546 参照 ・神経系疾患で認められる主な症候の根拠を簡素に説明できる。	益田 健史
3	後期 (10月～3月)	「神経系疾患(1)」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脳梗塞」 テキストP.548 参照 ・脳梗塞の疫学、種類、病因、病態、症候、予後、現場活動について説明できる。	益田 健史
4	後期 (10月～3月)	「神経系疾患(1)」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脳梗塞」 テキストP.548 参照 ・脳血栓症と脳塞栓症の病理、病態生理、観察所見などの違いについて説明できる。	益田 健史
5	後期 (10月～3月)	「神経系疾患(2)」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「くも膜下出血」 テキストP.550 参照 ・くも膜下出血の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。	益田 健史
6	後期 (10月～3月)	「神経系疾患(2)」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「くも膜下出血」 テキストP.550 参照 ・くも膜下出血の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。	益田 健史

7	後 期 (10月～3月)	「神経系疾患（3）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脳出血」 テキスト P.552 参照 ・脳出血の疫学、病院、病態、好発部位、症候、現場活動について説明できる。	益田 健史
8	後 期 (10月～3月)	「神経系疾患（3）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「脳出血」 テキスト P.552 参照 ・脳出血の疫学、病院、病態、好発部位、症候、現場活動について説明できる。	益田 健史
9	後 期 (10月～3月)	「神経系疾患（4）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「中枢神経の感染症」 テキスト P.554 参照 ・髄膜炎の概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
10	後 期 (10月～3月)	「神経系疾患（5）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「変性疾患」 テキスト P.556 参照 ・パーキンソン病の概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
11	後 期 (10月～3月)	「神経系疾患（6）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「変性疾患」 テキスト P.556 参照 ・ALS（筋萎縮性側索硬化症）の概念、原因、病態、症候、合併症、現場活動について説明できる。	益田 健史
12	後 期 (10月～3月)	「神経系疾患（7）」 神経系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「その他の疾患」 テキスト P.555 参照 ・てんかんの概念、原因、症候について説明できる。	益田 健史
成績評価方法		筆記試験（ <u>神経系疾患分野 50 点</u> ＋ <u>内分泌系疾患分野 50 点</u> ＝100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 特になし。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	疾病救急医学Ⅰ ―内分泌系疾患分野― (Emergency Medicine Ⅰ)
担当者	武山 直志
単位数(時間数)	2単位(神経系疾患分野 24時間 + 内分泌系疾患分野 26時間 = 50時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 代謝・内分泌・栄養系疾患は救急搬送する傷病者の中でも意識障害を呈して本人の訴えが乏しい疾患であり、その疾病構造、病態生理をよく理解したうえで観察所見などから疾病の重篤度を読み取れるように学習する。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある各々の講師が、その専門分野における経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「総論」 代謝・内分泌・栄養系疾患の解剖生理、検査、主な症候について理解する。	「内分泌における解剖」テキストP.604参照 ・内分泌系の解剖生理について説明できる。 ・視床下部の機能について説明できる。	武山 直志
2	後期 (10月～3月)	「総論」 代謝・内分泌・栄養系疾患の解剖生理、検査、主な症候について理解する。	「内分泌における解剖」テキストP.604参照 ・自律神経の機能について説明できる。	武山 直志
3	後期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(1)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「糖尿病(1)」テキストP.605参照 ・糖尿病の発症メカニズムについて説明できる。 ・糖尿病の疫学について説明できる。	武山 直志
4	後期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(2)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「糖尿病(2)」テキストP.606参照 ・1型糖尿病の病態について説明できる。 ・2型糖尿病の病態について説明できる。	武山 直志
5	後期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(3)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「糖尿病(3)」テキストP.607参照 ・糖尿病による合併症について説明できる。 ・糖尿病の治療について説明できる。	武山 直志
6	後期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(4)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「糖尿病(4)」テキストP.611参照 ・糖尿病性ケトアシドーシスの病態について説明できる。 ・高浸透圧高血糖症候群の病態について説明できる。	武山 直志

7	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(5)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「内分泌・栄養系疾患」テキスト P.615 参照 ・ビタミン低下に伴う疾患の概念、疫学、病態、症候、合併症、観察、処置について説明できる。	武山 直志
8	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(6)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「水電解質の異常」テキスト P.612 参照 ・高張性脱水と低張性脱水の違いについて浸透圧の概念を用いて説明できる。	武山 直志
9	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(7)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「酸塩基平衡の異常」テキスト P.613 参照 ・呼吸性アシドーシスの概要について説明できる。 ・呼吸性アルカローシスの概要について説明できる。	武山 直志
10	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(8)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「内分泌疾患(1)」テキスト P.614 参照 ・甲状腺機能亢進症の病態、症候について説明できる。 ・甲状腺機能低下症の病態、症候について説明できる。	武山 直志
11	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(9)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「内分泌疾患(2)」テキスト P.615 参照 ・褐色細胞腫の病態、症候について説明できる。 ・クッシング病の病態、症候について説明できる。	武山 直志
12	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(10)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「高脂血症・痛風」テキスト P.625 参照 ・痛風の症状、原因、救急現場活動について説明できる。	武山 直志
13	後 期 (10月～3月)	「代謝・内分泌・栄養系疾患(11)」 代謝・内分泌・栄養系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「血糖異常」テキスト P.608 参照 ・低血糖の症状、原因、救急現場活動について説明できる。	武山 直志
成績評価方法		筆記試験（神経系疾患分野 50 点＋ <u>内分泌系疾患分野 50 点</u> ＝100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 特になし。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	疾病救急医学Ⅱ (Emergency Medicine Ⅱ)
担当者	小澤 勝男
単位数(時間数)	2単位(40時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 呼吸器および循環器の疾患のうち主として救急救命活動の対象となることの多い疾患を対象としてそれらの概要について学習する。勉学の到達目標は救急救命活動の現場でこれらの疾患に遭遇したときに、その病気のあらましが理解でき、救急処置や搬送ができるようになることである。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学（主に胸部外科）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「呼吸不全の定義（総論）」 閉塞性・拘束性換気障害の原因を列挙し、それぞれの発症機序について理解する。	「換気血流不均等」 救命士標準テキストP.456 参照 ・肺内シャントを呈する疾患について説明できる。 ・肺胞死腔を呈する疾患について説明できる。	小澤 勝男
2	後期 (10月～3月)	「呼吸器疾患（1）」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「急性喉頭蓋炎など」 テキストP.560 参照 ・急性喉頭蓋炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
3	後期 (10月～3月)	「呼吸器疾患（2）」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「気胸・肺血栓塞栓症」 テキストP.564&584 参照 ・気胸および肺血栓塞栓症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
4	後期 (10月～3月)	「呼吸器疾患（3）」 呼吸器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「過換気症候群・ARDS」 テキストP.565 参照 ・過換気症候群およびARDSの病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
5	後期 (10月～3月)	「循環器疾患（1）」 循環器疾患における重要な症候について理解する。	「総論」 テキストP.567 参照 ・狭心痛の特徴について説明できる。 ・救急現場での応急処置と搬送について説明できる。	小澤 勝男

6	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患（２）」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「心筋梗塞・その合併症」 テキスト P.569 参照 ・心筋梗塞の病態、症状、合併症、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
7	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患（３）」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「房室ブロック」 テキスト P.578 参照 ・１度房室ブロック、２度房室ブロック、３度房室ブロックの違いを波形上で説明できる。	小澤 勝男
8	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患（４）」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「ＱＴ延長など」 テキスト P.576 参照 ・頻脈性不整脈の波形の特徴と病態について説明できる。	小澤 勝男
9	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患（５）」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「急性大動脈解離」 テキスト P.582 参照 ・急性大動脈解離および先天性心疾患の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
10	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患（６）」 循環器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「急性四肢動脈閉塞症など」 テキスト P.585 参照 ・急性四肢動脈閉塞症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
11	後 期 (10月～3月)	「消化管の総括」 消化管の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「総 論」 救命士標準テキスト P.587 参照 ・消化器疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要について説明できる。	小澤 勝男
12	後 期 (10月～3月)	「上部消化管の総括」 上部消化管の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「上部消化管疾患のまとめ」 ・上部消化管の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
13	後 期 (10月～3月)	「下部消化管の総括」 下部消化管の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「下部消化管疾患のまとめ」 ・下部消化管の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
14	後 期 (10月～3月)	「肝・胆・膵・脾の総括」 肝・胆・膵・脾の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「肝・胆・膵・脾疾患のまとめ」 ・肝・胆・膵・脾の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
15	後 期 (10月～3月)	「呼吸器疾患の総括（１）」 呼吸器疾患の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「呼吸器疾患のまとめ（１）」 ・呼吸器疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
16	後 期 (10月～3月)	「呼吸器疾患の総括（２）」 呼吸器疾患の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「呼吸器疾患のまとめ（２）」 ・呼吸器疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
17	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患の総括（１）」 循環器疾患の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「循環器疾患のまとめ（１）」 ・循環器疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
18	後 期 (10月～3月)	「循環器疾患の総括（２）」 循環器疾患の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「不整脈の解説など」 ・12 誘導心電図波形の不整脈の解説と解剖学的な理解について説明できる。	小澤 勝男

19	後 期 (10 月～3 月)	「循環器疾患の総括（３）」 循環器疾患の発症機序、病態、症状、観察、 処置及び搬送法について理解する。	「循環器疾患のまとめ（２）」 ・循環器疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現 場について説明できる。	小澤 勝男
20	後 期 (10 月～3 月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	小澤 勝男
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 呼吸器および循環器の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、 処置及び搬送法に反映できるよう学習する。		

学科・年次	救急救命科 1 年次
科目名	疾病救急医学Ⅲ （ Emergency Medicine Ⅲ ）
担当者	小澤 勝男
単位数（時間数）	1 単位（ 30 時間 ）
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 消化器系疾患は救急搬送する疾病患者の中でも循環器と並んで多く取り扱う疾患であり、その疾病構造、病態生理をよく理解し、訴える症状から疾病の重篤度を読み取れるように学習する。 腎不全、泌尿・生殖系は男性、女性で異なるためにその違いを学習する。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学（主に胸部・腹部外科）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10 月～3 月)	「消化器疾患（１）」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「総 論」 救命士標準テキスト P.587 参照 ・消化器疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要について説明できる。	小澤 勝男
2	後 期 (10 月～3 月)	「消化器疾患（２）」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「胃・十二指腸疾患」 テキスト P.590 参照 ・胃・十二指腸潰瘍および急性胃粘膜病変（AGML）の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
3	後 期 (10 月～3 月)	「消化器疾患（３）」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「小腸疾患」 救命士標準テキスト P.592 参照 ・腸閉塞および上腸間膜動脈閉塞症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
4	後 期 (10 月～3 月)	「消化器疾患（４）」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「大腸疾患」 救命士標準テキスト P.593 参照 ・大腸穿孔および虚血性大腸炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
5	後 期 (10 月～3 月)	「消化器疾患（５）」 消化器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「腹膜炎」 救命士標準テキスト P.594 参照 ・急性腹膜炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男

6	後 期 (10月～3月)	「肝・胆・膵・腹膜の疾患」 肝臓・胆道・膵臓などの疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「肝・胆・膵・腹膜の疾患」 テキスト P.594 参照 ・肝硬変、急性胆道感染症、急性膵炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
7	後 期 (10月～3月)	「泌尿器系疾患（１）」 泌尿器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「総 論」 救命士標準テキスト P.597 参照 ・泌尿器系疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要について説明できる。	小澤 勝男
8	後 期 (10月～3月)	「泌尿器系疾患（２）」 泌尿器系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「腎臓の疾患」 救命士標準テキスト P.599 参照 ・急性腎不全および慢性腎不全の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
9	後 期 (10月～3月)	「生殖器疾患」 生殖器疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「卵巣嚢腫捻転など」 テキスト P.603 参照 ・卵巣嚢腫捻転および子宮内膜症の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
10	後 期 (10月～3月)	「上部消化管の総括」 上部消化管の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「上部消化管疾患のまとめ」 ・上部消化管の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
11	後 期 (10月～3月)	「下部消化管の総括」 下部消化管の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「下部消化管疾患のまとめ」 ・下部消化管の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
12	後 期 (10月～3月)	「泌尿器系疾患の総括」 泌尿器系疾患の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「泌尿器系疾患のまとめ」 ・泌尿器系疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
13	後 期 (10月～3月)	「生殖器疾患の総括」 生殖器疾患の発症機序、病態、症状、観察、処置及び搬送法について理解する。	「生殖器疾患のまとめ」 ・生殖器疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
14	後 期 (10月～3月)	「総 括」 発症機序、病態、症状、所見及び観察、評価、処置及び搬送法について理解する。	「まとめ」 ・各疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	小澤 勝男
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 知っている身近な幾つかの病気から知識を発展させるとよい。		

学科・年次	救急救命科 1 年次
科目名	疾病救急医学Ⅳ (Emergency Medicine Ⅳ)
担当者	小澤 勝男
単位数 (時間数)	1 単位 (20 時間)
学習方法	講 義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第 10 版

授業概要と目的
【 学習目的 】 各種疾患（小児、高齢者、妊産婦等を含む）の発症機序、病態、症状、所見、及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 筋骨格系、皮膚の救急疾患について、その症状、応急処置、搬送について学習する。 なお、医師（医学博士）として医療機関などで救急医学（主に胸部・腹部外科）に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10 月～3 月)	「筋・関節総論」 筋・骨格系疾患の疫学、病態、症候、観察、 処置について理解する。	「主要症候」 救命士標準テキスト P.622 参照 ・筋・骨格系疾患の主要症候について説明できる。 ・筋・骨格系疾患の重症度について説明できる。	小澤 勝男
2	後 期 (10 月～3 月)	「筋・骨格系疾患（総論）」 筋・骨格系疾患の疫学、病態、症候、観察、 処置について理解する。	「化膿性関節炎など」 テキスト P.625 参照 ・化膿性関節炎および肘内障の病態、症状、観察、処置 について説明できる。	小澤 勝男
3	後 期 (10 月～3 月)	「脊柱疾患（総論）」 脊椎疾患の疫学、病態、症候、観察、処置に ついて理解する。	「脊椎疾患」 救命士標準テキスト P.625 参照 ・椎間板ヘルニアの定義、原因、症状、観察、処置につ いて説明できる。	小澤 勝男
4	後 期 (10 月～3 月)	「筋系疾患（総論）（１）」 筋系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置に ついて理解する。	「重症筋無力症など」 標準テキスト P.626 参照 ・重症筋無力症および周期性四肢麻痺の定義、原因、症 状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
5	後 期 (10 月～3 月)	「筋系疾患（総論）（２）」 筋系疾患の疫学、病態、症候、観察、処置に ついて理解する。	「横紋筋融解症」 標準テキスト P.626 参照 ・横紋筋融解症の概念、原因、症状、観察、処置につい て説明できる。	小澤 勝男
6	後 期 (10 月～3 月)	「皮膚疾患（総論）」 皮膚疾患の疫学、病態、症候、観察、処置に ついて理解する。	「壊死性筋膜炎など」 標準テキスト P.629 & 642 参照 ・壊死性筋膜炎および蜂窩織炎の病態、症状、観察、処 置について説明できる。	小澤 勝男

7	後 期 (10月～3月)	「皮膚疾患（各論）」 皮膚疾患の疫学、病態、症候、観察、処置について理解する。	「壊死性筋膜炎など」 標準テキスト P.629&642 参照 ・壊死性筋膜炎および蜂窩織炎の病態、症状、観察、処置について説明できる。	小澤 勝男
8	後 期 (10月～3月)	「総 括」 発症機序、病態、症状、所見及び観察、評価、処置及び搬送法について理解する。	「まとめ」 ・各疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
9	後 期 (10月～3月)	「総 括」 発症機序、病態、症状、所見及び観察、評価、処置及び搬送法について理解する。	「まとめ」 ・各疾患の概念、分類、原因、病態、症候、救急現場について説明できる。	小澤 勝男
10	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	小澤 勝男
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 解剖図などと併合しながら学習すると良い。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	外傷救急医学Ⅰ (Trauma and Emergency Medicine Ⅰ)
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 外傷の定義、発生機序、身体各部の外傷の特徴とその取り扱いについて学習する。 外傷という外部より急に障害を受ける病態を理解し、その重症度のみならず緊急度の判断ができるようになることが求められる。それには人体の構造とその働き(生理)を良く理解し、その上で、その異常である病態生理が解るように学習する。 なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「外傷総論(1)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷の疫学」 救命士標準テキストP.688 参照 ・ロード&ゴーやトラウマバイパスについて説明できる。	益田 健史
2	後期 (10月～3月)	「外傷総論(2)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷システム」 標準テキストP.689 参照 ・トラウマバイパスの定義について説明できる。 ・JPTECの活動理念について説明できる。	益田 健史
3	後期 (10月～3月)	「外傷総論(3)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「受傷機転とエネルギー」 テキストP.691 参照 ・高エネルギー外傷について説明できる。 ・減速作用機序で生じる損傷部位について説明できる。	益田 健史
4	後期 (10月～3月)	「外傷総論(4)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「受傷機転とエネルギー」 テキストP.692 参照 ・直達外力について説明できる。 ・介達外力について説明できる。	益田 健史
5	後期 (10月～3月)	「外傷総論(5)」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷の分類」 標準テキストP.694 参照 ・鋭的外傷の定義について説明できる。 ・鈍的外相の定義について説明できる。	益田 健史

6	後 期 (10月～3月)	「外傷総論（6）」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷の分類」 標準テキスト P.694 参照 ・多発外傷の定義について説明できる。	益田 健史
7	後 期 (10月～3月)	「外傷総論（7）」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「主な受傷形態（1）」 標準テキスト P.697 参照 ・ダッシュボード外傷の受傷機転について説明できる。 ・ハンドル外傷の受傷機転について説明できる。	益田 健史
8	後 期 (10月～3月)	「外傷総論（8）」 外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「主な受傷機転（2）」 テキスト P.698 参照 ・歩行者外傷における一次損傷、二次損傷、三次損傷について説明できる。	益田 健史
9	後 期 (10月～3月)	「外傷の病態生理（1）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「侵襲時の循環動態の変化」 テキスト P.702 参照 ・出血によるホルモン分泌反応について説明できる。	益田 健史
10	後 期 (10月～3月)	「外傷の病態生理（2）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「侵襲時の循環動態の変化」 テキスト P.702 参照 ・外傷死の3徴について説明できる。	益田 健史
11	後 期 (10月～3月)	「外傷の病態生理（3）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「外傷に伴うショック(1)」 テキスト P.705 参照 ・循環血流量減少性ショックの身体所見について説明できる。	益田 健史
12	後 期 (10月～3月)	「外傷の病態生理（4）」 外傷時の循環動態、炎症性メディエータなどの病態生理について理解する。	「外傷に伴うショック(2)」 テキスト P.706 参照 ・心外閉塞性・拘束性ショックの身体所見について説明できる。	益田 健史
13	後 期 (10月～3月)	「外傷の現場活動（1）」 外傷時の初期評価、全身観察からの緊急度・重症度の把握について理解する。	「初期評価」 標準テキスト P.709 参照 ・初期評価の目的、評価項目、および初期評価段階で行うべき処置について説明できる。	益田 健史
14	後 期 (10月～3月)	「外傷の現場活動（2）」 外傷時の初期評価、全身観察からの緊急度・重症度の把握について理解する。	「全身観察」 標準テキスト P.710 参照 ・全身観察の目的、評価項目、および全身観察段階で行うべき処置について説明できる。	益田 健史
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法		筆記試験（100点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバイス 】 知っている身近な幾つかの病気から知識を発展させるとよい。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	外傷救急医学Ⅱ (Trauma and Emergency Medicine Ⅱ)
担当者	大野 健二
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 頭部外傷：脳損傷は最も致命的な損傷である。然し、救急隊長の判断の良し悪しでその後の経過に差が出ている。また、頸部、脊椎、脊髄の損傷は重大な後遺症を残しやすい。そこで初期の判断と応急処置について重点的に学習する。 胸部外傷：特に直接呼吸・循環機能に障害を及ぼし、しばしば致命的となる。 頭部～胸部外傷の病態生理について理解し、現場での適切な救急処置ができるようになること、及び適切な搬送先の選択と搬送ができるように学習する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後 期 (10月～3月)	「頭部外傷(1)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「一次性脳損傷など」標準テキストP.716 参照 ・頭部外傷における一次性脳損傷と二次性脳損傷との違いについて説明できる。	大野 健二
2	後 期 (10月～3月)	「頭部外傷(2)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「急性硬膜外血腫など」標準テキストP.718 参照 ・急性硬膜外血腫の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
3	後 期 (10月～3月)	「頭部外傷(3)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「びまん性軸索損傷など」標準テキストP.719 参照 ・びまん性軸索損傷及びピンポンボール骨折(小児)の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
4	後 期 (10月～3月)	「頭部外傷(4)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「外傷性くも膜下出血」標準テキストP.719 参照 ・外傷性くも膜下出血及び慢性硬膜下血腫の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
5	後 期 (10月～3月)	「頭部外傷(5)」 頭部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「頭蓋底骨折」標準テキストP.720 参照 ・頭蓋底骨折の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二

6	後 期 (10月～3月)	「顔面・頸部外傷（１）」 顔面外傷および頸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「上顎骨・下顎骨の骨折」 テキスト P.723 参照 ・上顎骨骨折及び下顎骨骨折の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
7	後 期 (10月～3月)	「顔面・頸部外傷（２）」 顔面外傷および頸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「眼窩吹き抜け骨折」 テキスト P.723 参照 ・眼窩吹き抜け骨折の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
8	後 期 (10月～3月)	「顔面・頸部外傷（３）」 顔面外傷および頸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「その他の顔面外傷」 テキスト P.724 参照 ・その他の顔面外傷の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
9	後 期 (10月～3月)	「脊椎・脊髄外傷（１）」 脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「頸髄損傷・脊髄損傷」 テキスト P.727 参照 ・高位頸髄損傷の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
10	後 期 (10月～3月)	「脊椎・脊髄外傷（２）」 脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「その他の頸椎骨折」 テキスト P.729 参照 ・ジェファークソン骨折について説明できる。 ・ハングマン骨折について説明できる。	大野 健二
11	後 期 (10月～3月)	「脊椎・脊髄外傷（３）」 脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「脊髄ショックなど」 テキスト P.729 参照 ・脊髄ショックと神経原性ショックの違いについて説明できる。	大野 健二
12	後 期 (10月～3月)	「胸部外傷（１）」 胸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「心タンポナーデ」 標準テキスト P.734 参照 ・心タンポナーデの受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
13	後 期 (10月～3月)	「胸部外傷（２）」 胸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「緊張性気胸」 標準テキスト P.735 参照 ・緊張性気胸の受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
14	後 期 (10月～3月)	「胸部外傷（３）」 胸部外傷の疫学、受傷機転、分類について理解する。	「フレイルチェスト」 標準テキスト P.736 参照 ・フレイルチェストの受傷機転、症候、現場活動について説明できる。	大野 健二
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	大野 健二
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 特になし。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	外傷救急医学 III (Trauma and Emergency Medicine III)
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	1単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書:救急救命士標準テキスト改訂第10版

授業概要と目的
【 学習目的 】 外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。 【 授業概要 】 外傷総論で学習したことをふまえて「外傷」という「外部からの急激な障害」を受ける病態を理解し、その重症度のみならず緊急度の判断を学習する。そのために、各論として身体各部の外傷の特徴を学習する。 なお、医師として医療機関などで救急医学に関する臨床経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期 (10月～3月)	「腹部外傷(1)」 腹部外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「主な腹部外傷」 救命士標準テキストP.740 参照 ・腹部の実質臓器の損傷とそれぞれの出血量について説明できる。	益田 健史
2	後期 (10月～3月)	「腹部外傷(2)」 腹部外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「腹部外傷の現場活動」 標準テキストP.741 参照 ・腸管脱出および穿通性異物に対する処置の概要について説明できる。	益田 健史
3	後期 (10月～3月)	「骨盤外傷(1)」 骨盤外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「骨盤外傷の特徴」 標準テキストP.743 参照 ・安定型骨盤骨折および不安定型骨盤骨折の定義について説明できる。	益田 健史
4	後期 (10月～3月)	「骨盤外傷(2)」 骨盤外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「骨盤外傷の現場活動」 テキストP.744 参照 ・骨盤骨折傷病者に対する病院前での骨盤固定について説明できる。	益田 健史
5	後期 (10月～3月)	「四肢外傷(1)」 四肢外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「四肢外傷の特徴など」 テキストP.747 参照 ・四肢外傷の特徴および病態について説明できる。 ・阻血の5Pについて説明できる。	益田 健史
6	後期 (10月～3月)	「四肢外傷(2)」 四肢外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「四肢外傷の現場活動」 テキストP.751 参照 ・出血、捻挫・脱臼、骨折、コンパートメント症候群、指趾切断に対する適切な処置について説明できる。	益田 健史

7	後 期 (10月～3月)	「四肢外傷（3）」 四肢外傷の概念、受傷機転、分類について理解する。	「四肢外傷の現場活動」 テキスト P.751 参照 ・股関節脱臼の所見、搬送時の注意点について説明できる。	益田 健史
8	後 期 (10月～3月)	「小児の外傷」 小児に対する外傷の概念、受傷機転、特徴について理解する。	「小児の主な外傷」 テキスト P.756 参照 ・児童虐待による頭部外傷の特徴について説明できる。 ・肘内障の特徴について説明できる。	益田 健史
9	後 期 (10月～3月)	「高齢者の外傷」 高齢者に対する外傷の概念、受傷機転、特徴について理解する。	「高齢者の主な外傷」 テキスト P.758 参照 ・高齢者の慢性硬膜下血腫の特徴について説明できる。 ・大腿部近位部骨折の特徴について説明できる。	益田 健史
10	後 期 (10月～3月)	「妊婦の外傷」 妊婦に対する外傷の概念、受傷機転、特徴について理解する。	「妊婦の主な外傷」 テキスト P.759 参照 ・妊娠後期における搬送の特殊性について説明できる。 ・妊婦における外傷の特徴について説明できる。	益田 健史
11	後 期 (10月～3月)	「熱 傷」 熱傷の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「熱傷の評価方法」 テキスト P.762 参照 ・熱傷深度推定法の特徴と評価方法が説明できる。 ・熱傷面積の評価方法と算定が説明できる。	益田 健史
12	後 期 (10月～3月)	「化学損傷」 化学損傷の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「主な化学損傷」 テキスト P.766 参照 ・酸・アルカリによる化学損傷の特徴および応急処置について説明できる。	益田 健史
13	後 期 (10月～3月)	「縊頸・絞頸」 縊頸および絞頸の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「縊頸・絞頸」 テキスト P.778 参照 ・縊頸・絞頸の定義、病態、症候および救急現場での対応について説明できる。	益田 健史
14	後 期 (10月～3月)	「刺咬症（傷）」 刺咬症（傷）の概念、受傷機転、評価方法について理解する。	「刺咬症（傷）」 テキスト P.781 参照 ・爬虫類の咬症の対応について説明できる。 ・海洋生物の刺咬症の対応について説明できる	益田 健史
15	後 期 (10月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	益田 健史
成績評価方法		筆記試験（100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバス 】 知っている身近な幾つかの病気から知識を発展させるとよい。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	シミュレーション実習Ⅰ【搬送基礎法】（SimulationⅠ【The Conveyance basic】）
担当者	松本 綾
単位数（時間数）	2単位（心肺蘇生法など62時間＋ <u>搬送基礎法28時間</u> ＝90時間）
学習方法	実 習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版

授業概要と目的
【 学習目的 】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 <u>＊本実習は職業実践専門課程（文部科学省）指定実習として民間患者搬送事業が担当する臨地実習となる。</u> 【 授業概要 】 1）道路・一般住宅・階段などの状況に応じた救急搬送に関する技術を学ぶ。 2）傷病者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 3）傷病者に対する安全の配慮、事故防止対策について学ぶ。 なお、准看護師として民間救急搬送会社などで患者搬送事業に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通 年 (4月～3月)	「搬送法概論」 傷病者を安全に搬送するための手順・技術について理解する。	「ボディメカニクスの基本」テキストP.437参照 ・傷病者搬送における力学的原理について説明できる。	松本 綾
2	通 年 (4月～3月)	「搬送法概論」 傷病者を安全に搬送するための手順・技術について理解する。	「パワーリフティングなど」テキストP.438参照 ・救急隊員の身体的負担の軽減方法について説明できる。	松本 綾
3	通 年 (4月～3月)	「徒手搬送」 徒手搬送の適応及び搬送技術について理解する。	「支持搬送など」救命士標準テキストP.439参照 ・支持搬送の適応について説明できる。	松本 綾
4	通 年 (4月～3月)	「徒手搬送」 徒手搬送の適応及び搬送技術について理解する。	「組手搬送など」救命士標準テキストP.439参照 ・組手搬送の適応について説明できる。	松本 綾

5	通 年 (4月～3月)	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「メインストレッチャー」テキストP.444 参照 ・メインストレッチャーの特徴について説明できる。	松本 綾
6	通 年 (4月～3月)	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「サブストレッチャー」テキストP.441 参照 ・サブストレッチャーの特徴について説明できる。	松本 綾
7	通 年 (4月～3月)	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「布担架など」救命士標準テキストP.441 参照 ・布担架の特徴について説明できる。	松本 綾
8	通 年 (4月～3月)	「器具を用いた搬送」 搬送用資器材の使用上の注意、取扱い、適応などについて理解する。	「スクープストレッチャーなど」P.443 参照 ・スクープストレッチャーの特徴について説明できる。	松本 綾
9	通 年 (4月～3月)	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「狭隘な場所からの搬送」テキストP.569 参照 ・トイレからの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
10	通 年 (4月～3月)	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「狭隘な場所からの搬送」テキストP.442 参照 ・一般住宅からの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
11	通 年 (4月～3月)	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「階段などからの搬送」標準テキストP.442 参照 ・階段からの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
12	通 年 (4月～3月)	「搬送基礎総論」 狭隘な場所および階段などからの搬送上の注意点、搬送方法について理解する。	「事故車両からの搬送」標準テキストP.449 参照 ・事故車両からの搬送上の注意点について説明できる。	松本 綾
13	通 年 (4月～3月)	「曳航・搬入・搬出」 救急自動車への曳航・搬入・搬出の注意点、搬送方法について理解する。	「メインストレッチャーによる曳航など」 救命士標準テキストP.444 参照 ・メインストレッチャー曳航中などの注意点について説明できる。	松本 綾
14	通 年 (4月～3月)	「科目認定試験」	これまでの学習内容について正しく説明できる。	松本 綾
成績評価方法		実技試験（ <u>搬送基礎法 60 点</u> ＋ <u>搬送実践法 40 点</u> ＝100 点満点）によって評価する。		
準備学習など		【 講師からのアドバース 】 救急搬送時の接遇面を心掛けた上でシミュレーション実習に取り組むこと。		

学科・年次	救急救命科 1年次
科目名	シミュレーション実習Ⅱ
担当者	石河 康司、大竹 宗也、柴尾 隆行、廣崎 英和、古谷 泰樹
単位数（時間数）	4単位 180時間
学習方法	演習・実習
教科書・参考書	教科書：救急救命士標準テキスト改訂第11版 参考書：救急処置スキルマスターおよびJPTECガイドブック改訂第2版補訂版

授業概要と目的
【学習目的】 修得した知識、技術を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な接遇を習得し、医師の指示の下で病院前救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。 【授業概要】 救急救命士特定行為プロトコルに準じた救急救命処置について講義する。 JPTECガイドラインに基づいた重症外傷時に於ける適切な処置・判断について講義する。 なお、救急救命士として消防機関などで救急業務に関する現場経験のある講師が、その経験を活かし授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通 年 (4月～3月)	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「喉頭展開」など 標準テキスト P.360 参照 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
2	通 年 (4月～3月)	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「挿入と位置確認」 標準テキスト P.361 参照 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
3	通 年 (4月～3月)	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「気管挿管困難症への対応」 テキスト P.364 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
4	通 年 (4月～3月)	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「ビデオ喉頭鏡」 標準テキスト P.364 参照 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
5	通 年 (4月～3月)	「気管挿管の方法と手順」 気管挿管の方法と手順について修得する。	「気管吸引」 標準テキスト P.367 参照 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷

6	通 年 (4月～3月)	「気管挿管を使用した二次救命処置」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管を用いた気道確保」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
7	通 年 (4月～3月)	「気管挿管を使用した二次救命処置」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管を用いた気道確保」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
8	通 年 (4月～3月)	「気管挿管を使用した二次救命処置」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管を用いた気道確保」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
9	通 年 (4月～3月)	「気管挿管（筆記・実技試験）」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管（筆記・実技試験）」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
10	通 年 (4月～3月)	「気管挿管（筆記・実技試験）」 気管挿管を使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「気管挿管（筆記・実技試験）」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
11	通 年 (4月～3月)	「静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置（ALS）を修得する。	「静脈路確保と輸液を用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
12	通 年 (4月～3月)	「静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置（ALS）を修得する。	「静脈路確保と輸液を用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
13	通 年 (4月～3月)	「アドレナリンを使用した二次救命処置」 アドレナリンを使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「アドレナリンを用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
14	通 年 (4月～3月)	「アドレナリンを使用した二次救命処置」 アドレナリンを使用した二次救命処置（ALS）を修得する。	「アドレナリンを用いた隊活動」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
15	通 年 (4月～3月)	「JPTEC の概念」 JPTEC の概念について理解する。	「JPTEC とは？」 JPTEC ガイドブック P.1～13 ・JPTEC の定義を説明できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
16	通 年 (4月～3月)	「JPTEC の概念」 JPTEC の概念について理解する。	「JPTEC とは？」 JPTEC ガイドブック P.1～13 ・JPTEC の基本的な処置・概念を説明できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
17	通 年 (4月～3月)	「状況評価・全身観察」 状況評価及び全身観察について修得する。	「状況評価・全身観察」 ガイドブック P.16～19 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
18	通 年 (4月～3月)	「状況評価・全身観察」 状況評価及び全身観察について修得する。	「状況評価・全身観察」 ガイドブック P.16～19 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷

19	通 年 (4月～3月)	「 静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置 」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置 (ALS) と薬剤投与プロトコルを修得する。	「 静脈路確保と薬剤投与の隊活動 」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
20	通 年 (4月～3月)	「 静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置 」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置 (ALS) と薬剤投与プロトコルを修得する。	「 静脈路確保と薬剤投与の隊活動 」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
21	通 年 (4月～3月)	「 静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置 」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置 (ALS) と薬剤投与プロトコルを修得する。	「 静脈路確保と薬剤投与の隊活動 」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
22	通 年 (4月～3月)	「 静脈路確保と輸液等を用いた二次救命処置 」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置 (ALS) と薬剤投与プロトコルを修得する。	「 静脈路確保と薬剤投与の隊活動 」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
23	通 年 (4月～3月)	「 静脈路確保・薬剤投与（筆記試験） 」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置 (ALS) と薬剤投与プロトコルを修得する。	「 静脈路確保と薬剤投与の筆記試験 」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
24	通 年 (4月～3月)	「 静脈路確保・薬剤投与（実技試験） 」 静脈路確保と輸液を用いた二次救命処置 (ALS) と薬剤投与プロトコルを修得する。	「 静脈路確保と薬剤投与の実技試験 」 ・目的、適応、禁忌、手技、合併症を考慮した救急活動を実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
25	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 1 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
26	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 2 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
27	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 1 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
28	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 3 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
29	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 4 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
30	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 5 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
31	通 年 (4月～3月)	「 想定訓練 6 」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「 薬剤プロトコル&JPTEC アルゴリズム 」 ・薬剤プロトコル及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷

45	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 20」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「薬剤プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・薬剤プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
46	通 年 (4月～3月)	「シナリオ実技試験 1」 心肺停止事例の想定されたシナリオの活動内容について修得する。	「薬剤投与シナリオ実技試験」 ・薬剤プロトコールの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
47	通 年 (4月～3月)	「シナリオ実技試験 2」 心肺停止事例の想定されたシナリオの活動内容について修得する。	「薬剤投与シナリオ実技試験」 ・薬剤プロトコールの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
48	通 年 (4月～3月)	「シナリオ実技試験 3」 心肺停止事例の想定されたシナリオの活動内容について修得する。	「薬剤投与シナリオ実技試験」 ・薬剤プロトコールの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
49	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 21」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
50	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 22」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
51	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 23」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
52	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 24」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
53	通 年 (4月～3月)	「シナリオ実技試験 4」 交通事故事例などの想定された外傷シナリオの活動内容について修得する。	「JPTEC シナリオ実技試験」 ・JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
54	通 年 (4月～3月)	「シナリオ実技試験 5」 交通事故事例などの想定された外傷シナリオの活動内容について修得する。	「JPTEC シナリオ実技試験」 ・JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
55	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 25」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
56	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 26」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
57	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 27」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷

71	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 41」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
72	通 年 (4月～3月)	「想定訓練 42」 心肺停止事例及び交通事故事例などの想定された活動内容について修得する。	「気管挿管プロトコール&JPTEC アルゴリズム」 ・気管挿管プロトコール及び JPTEC アルゴリズムの目的、適応について、それぞれ説明・実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
73	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 1」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
74	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 2」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
75	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 3」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
76	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 4」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
77	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 5」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
78	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 6」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
79	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 7」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
80	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 8」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
81	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 9」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
82	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 10」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
83	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 11」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷

84	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 12」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
85	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 13」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
86	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 14」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
87	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 15」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
88	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 16」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
89	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 17」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
90	通 年 (4月～3月)	「総合想定訓練 18」 各シナリオなどによって想定された活動内容について修得する。	「まとめ」 ・心肺停止時及び外傷時における病院前救護（主に特定行為など）に関する想定に対して実施できる。	石河・大竹 柴尾・廣崎 古谷
成績評価方法		成績評価点数を（100％または 100 点）とし、筆記試験及び実技技能試験（設定時間内に実技が終了出来なかった場合は、口頭試問を行うことがある）で 60％または 60 点以上を合格とする。		
準備学習など		講義実施日までに、シラバスに記載された救急救命士標準テキストの内容を予習しておくこと。		